

# 第17回 令和4年度 小中一貫教育全国サミット in 飯塚

研究テーマ

「社会を生き抜く力の根っこ」を育てる小中一貫教育の創造  
～穂波東校「9年間の教育活動プラン」を通して～

## ～学習指導案～



PBL(Project-based Learning) 幸袋校

C-L Time(異学年交流) 穂波東校

地域の方との体験活動 穎田校

開催日:令和4年11月4日(金)  
飯塚市立小中一貫校穂波東校  
(飯塚市立穂波東中学校・飯塚市立穂波東小学校)



## 公開授業一覧

年 組	指導者	教 科	単 元
1年1組	山下 宗之	生活科	体をつかってプログラミングをたいけんしよう (ルビィのぼうけん)
1年2組	大和 由紀子	国語科	おもい出してかこう (多層指導モデルMIM)
1年3組	原 朋華	算数科	かたちづくり
1年4組	高橋 真由美	算数科	たしざん (2)
2年1組	野元 慎之助	生活科	魚にえさを食べさせよう (ビスケット)
2年2組	藤野 巳穂	算数科	三角形と四角形
2年3組	當房 真奈美	算数科	かけ算 (2)
3年1組	中村 公香	外国語活動	What do you like? (C-L Time)
3年2組	大久保 邦代	算数科	三角形
3年3組	中嶋 雄三	総合的な学習の時間	オゾボットをゴールさせよう (オゾボット)
4年1組	長谷 恵美	算数科	面積
4年2組	石田 翔太	総合的な学習の時間	風船当てゲームを作ろう (スクラッチ)
4年3組	秋吉 光輝	総合的な学習の時間	みんなが安心して暮らせる街を
5年1組	曾根 理史	総合的な学習の時間	経済体験学習：スチューデント・シティ
5年2組	青山 由紀子	総合的な学習の時間	経済体験学習：スチューデント・シティ
5年3組	梶原 直人	総合的な学習の時間	経済体験学習：スチューデント・シティ
6年1組	岩倉 麻子	算数科	立体の体積
6年2組	平田 康夫	外国語科	I am hungry. 様子や特徴 (オンライン英会話)
6年3組	後藤 鈴奈	総合的な学習の時間	生活に役立つpepperのプログラムを作ろう (ロボブロックス)
なかよし1組	田中 ひとみ	自立活動	たたみかた名人になろう
なかよし2組	川村 史穂里	生活単元	秋の植物を見つけよう
なかよし3組	船越 明華	生活単元	遠足のおやつを買おう
なかよし4組	松尾 歩	自立活動	いい歯にしよう
なかよし5組	淵上 スミ子	自立活動	なかよくゲームをしよう
7年1組	切通 智行	技術・家庭科	プログラムによる計測・制御 (マイコンボードmicro:bitとPepperを用いて)
7年2組	高宮 和美	英語科	Our Project 2 この人を知っていますか
7年3組	河野 睦	総合的な学習の時間	生活設計体験学習：ファイナンス・パーク
8年1組	清水 さおり	国語科	いにしへの心を訪ねる 扇の的－「平家物語」から
8年2組	川口 拓朗	社会科	江戸幕府の成立と対外政策
8年3組	桑岡 有吏恵	英語科	Program4 High-Tech Nature (C-L Time)
9年1組	進登 大史	数学科	5章 図形と相似
9年2組	平尾 智美	国語科	いにしへの心を受け継ぐ
9年3組	都築 正悟	社会科	地方自治と私たち
かがやき1組	法橋 美貴	作業学習	くるみボタンでマグネットを作ろう
かがやき2組	松尾 聖奈子	自立活動	健康の保持に努めよう

# 第1学年1組 生活科学習指導案

指導者 山下 宗之

## 1 単元名 体をつかってプログラミングをたいけんしよう（ルビィのぼうけん）

### 2 単元観

○ 本単元は、コンピュータのプログラムの仕組みを、体を動かして体験したり生活の場面とつなげて考えたりすることを通して、コンピュータを動かすプログラムには、正しい順序で命令することが必要であると気づくことが主なねらいである。

児童はこれまでに、タブレットを利用する際、IDコードやパスワードを正確に順序よく入力したり、ロイロノートや GoogleMeet の使い方を学んだり、タブレットドリルを活用する学習を体験している。

その上で、「ルビィのぼうけん」のアクティビティの体験を通して、目的に応じて必要な選択肢を選んだり、明確な命令を正しい順序で行うことの大切さに気付いたりすることはプログラミング的思考の基礎を養う上で大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第2学年での「ビスケット」を使って簡単なゲームを作るプログラミング体験へとつながるため大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	第1学年（1学期）「タブレットをつかってみよう」（IDやパスワードの入力等）
現在	⇒本単元「体をつかってプログラミングをたいけんしよう」（ルビィのぼうけん）
未来	⇒第2学年「魚にえさを食べさせよう」（ビスケット）

### 3 単元の目標

- 身近な生活でプログラミングが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることを知ることができる。（知識及び技能）
- 目的に合わせて自分なりに予想したり、手順がよかったかどうかを考えたりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- プログラミングの仕組みに興味を持ち、体験を通して楽しんでいる。（学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全2時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○「ルビィのぼうけん」のアクティビティ「ダンス・ダンス・ダンス」を体験する。	◇目的に合わせて正しい手順で命令することが大切なことを理解することができる。【知・技】 ◇目的を意識して、正しくプログラムできるように最後までやり遂げようとしている。【主体的】
	2	●「ルビィのぼうけん」のアクティビティ「こまったこと」を体験する。	◇目的に合わせて正しい順番を考えたり、必要な命令を考えたりすることができる。【思・判・表】



5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於:1年1組教室

(1) 主眼

- 「ルビィのぼうけん」のアクティビティ「こまったこと」を使ったプログラミング体験を通して、正しい結果になるために、正しい順序で命令したり、必要な要素を考えたりすることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 前時学習を想起する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     〈コンピュータのひみつ〉                      ・ 指令した通りにやる                      ・ はじめとおわり                      ・ 小さく分ける・正しい順序                      ・ 繰り返し【ループ】                 </div>	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)  <b>「つかむ」段階</b> ○「ダンス・ダンス・ダンス」を想起させ、コンピュータを動かすプログラミングで大切なことについて、確認する。  <b>「見通す」段階</b> ○成功した場面を提示しゴールイメージをもたせるとともに、困っている場面と比較させることで、なぜ困ったことが起きたのかを考えさせる。	5    3
	2 困ったこと(バグ)を解決する本時の課題をつかむ。	○成功した場面を提示しゴールイメージをもたせるとともに、困っている場面と比較させることで、なぜ困ったことが起きたのかを考えさせる。	3
展開 【一人学び・学び合い】	めあて 正しくプログラムをして、こまったことをかいけつしよう。		
	3 正しくパーティの準備ができるプログラムを考える。	<b>「一人学び」の段階</b> ○正しい順序に気づかせるために、体を使って考えさせる。	5
	4 アクティビティ「こまったこと」をペアで解決する。 (1) お風呂に入る。 ・ 足りない手順がある。 (2) 食事をする。 ・ 命令の配置が正しくない。 (3) 歯磨きの手順を考え、プログラミングする。	<b>「学び合い」の段階</b> ○順序を入れ替えるだけでなく、足りない手順がある場面を設定する。 ○ペアで並べたカードを伝え合い、バグがないか確かめさせる。  ○並び変えたものをロイロノートで提出させ、全体交流に生かす。  ◇正しい順序や足りない手順を考え、正しくプログラムすることができる。(作品)	20
5 本時学習をまとめる。 (1) 困ったことを解決ために大切なことを発表する。	<b>「まとめる」段階</b> ○タブレット操作の中で困った経験と本時学習をつなげ、解決のポイントを生かせばよいことに気づかせる。	7	
終末 【まとめる】	まとめ プログラミングでこまったことをかいけつするには、じゅんじょを正しくしたり、足りないものをくわえたりすることがたいせつ。		
	(2) リフレクションを行う。	○新たな気づきや、友達との学び合いについて自分の考えを書かせる。	5

## 第1学年2組 国語科学習指導案

指導者 大和 由紀子

### 1 単元名 おもい出してかこう（多層指導モデル MIM）

### 2 単元観

- 本単元は、経験したことの中から、自分の思いや考えが明確になるように、事柄や順序に従って構成を考え、文章に書くことができるようになることが主なねらいである。

児童はこれまでに、「えにつきをかこう」「はっけんしたよ」等で、題材を決めたり段落を分けて文章を書いたりする力を身に付けている。

その上で、事柄の順序に沿って書くことの良さについて学習し、特殊音節のきまり等表記に気を付けながら、書いた文章を見直す力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第2学年で学習する「こんなことをしているよ」とつながるため、相手に伝わるように構成を考えて書くためには大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第1学年「えにつきをかこう」「はっけんしたよ」（東京書籍）
現在	⇒本単元「おもい出してかこう」（東京書籍）
未来	⇒第2学年「こんなことをしているよ」（東京書籍）

### 3 単元の目標

- かぎの使い方や特殊音節、事柄の順序などについて理解することができる。  
(知識及び技能)
- 事柄の順序に従って構成を考えて文章を書き、文章を読み返したり表記の間違いを正したりすることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 進んで、簡単な構成を考え、経験したことを報告しようとする。  
(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画（全9時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○学習課題をつかみ、心に残っているできごとを想起する。	◇心に残っている出来事をプリントに書くことができる。【思・判・表】
	2	○順序に気を付けて書くことを確認し、学習の見通しをもつ。	◇順序が分かる言葉に着目し、学習の見通しをもつことができる。【主体的】
二	3	○教科書モデル文をもとに、文章を書くときに大切なことを考える。	◇順序よく文章を書くために大切なことを理解することができる。【知・技】
	4	●特殊音節について振り返り、正しく読むための練習をする。	◇特殊音節を正しく読んだり、ことばをかたまりで読んだりすることができる。【知・技】
	5	○伝えたい出来事を決め、したことや思ったこと等を書き出す。	◇したことや思ったことを短冊に書くことができる。【思・表・判】
	6		
	7	○順序を表す言葉を入れ、つながりのある文章を書く。	◇順序よくつながりのある文章を書くことができる。【思・判・表】
	8	○書いた文章を読み返し、順序良く書いているか確かめる。	◇順序や表記について、文章を読み返し、確かめることができる。【知・技】
9	○文章を友だちと交換して読み合い、よいところを伝え合う。	◇友だちの文章を読んで、よいところを伝えることができる。【主体的】	

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：1年2組教室

(1) 主眼

- MIM—PMの結果から明らかになった特殊音節の読みにおける個々の課題に応じたカードゲームや「3つの言葉カード」等の活動を通して、特殊音節を正しく読んだり、ことばをかたまりで読んだりすることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 提示された作文を読みおかしなところに気づく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい「っ」が抜けてる</li> <li>・のぼす音が間違ってる</li> <li>・「よ」が「ゆ」になってる</li> </ul> </div> <p>(2) MIM—PMを想起し、苦手なこと、難しいところに気づかせる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「や・ゆ・よ」が入った言葉</li> <li>・「っ」が入った言葉</li> <li>・言葉のかたまりを見つける</li> </ul> </div>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○訂正が必要な文章を提示し、正しく表記しないと相手に伝わらないことに気付かせる。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○書くときに難しい言葉は、読むのも苦手なものが多いことに気づかせ、正しく書くためには、まずは正しく読めることが必要であることを確認し、本時学習課題につなげる。</p>	10
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 小さい「っ・や・ゆ・よ」がはいったことばを正しくよんだり、ことばのかたまり見つけたりできるようにれんしゅうしよう。</p> </div>			
展開 【一人学び・学び合い】	<p>2 MIM-PMの結果から、個に応じた練習をする。</p> <p>(1) 自分の課題に気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・拗音</li> <li>・拗長音</li> <li>・かたまりで読めない。</li> </ul> <p>(2) 共通した課題をもった友達と、課題に応じたカードゲームや「3つのことば」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レベル1：ルールが分かっていない。</li> <li>・レベル2：ルールは理解しているが練習が不足している。</li> <li>・かたまりで読むことができない。</li> <li>・読む力が身についている。</li> </ul>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○MIM—PMの結果を提示し、児童が自分の苦手なところに気づくことができるようにする。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○共通の課題をもったグループ編成を行い、その課題に応じた適切な練習に取り組ませることで、個の読みの力を高める。</p> <p>○課題はさらに分析し、レベルに応じ、より適切な活動を提示し練習を行えるようにする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>◇自分の読みの課題に気づき、課題解決のための活動に意欲的に取り組んでいる。(発言・態度)</p> </div>	15
終末 【まとめる】	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 今日の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 小さくかく字やことばのかたまりを正しくよんだ力を、正しくかくことに生かそう。</p> </div> <p>(2) リフレクションを行う。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○本時でできたことや難しかったことを出し合い、次時につなげる。</p>	8

## 第1学年3組 算数科学習指導案

指導者 原 朋華

### 1 単元名 かたちづくり

### 2 単元観

○ 本単元は、色板や棒などを使って、様々な形をつくる活動を通して、図形を構成する力と、観察する力を身につけるとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養うことが主なねらいである。

児童はこれまでに、「いろいろなかたち」で、ものの形の観察、弁別、面の写し取り等を学習し、ものの形の特徴をとらえる経験を積んできている。

その上で、図形の構成・分解について学習し、図形を構成する力と、操作によってできる図形の変化をとらえる力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第2学年で学習する「はこの形」「三角形と四角形」の学習につながるため、ものの形を構成したり、分解したりすることは大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	第1学年「いろいろなかたち」(啓林館)
現在	⇒本単元「かたちづくり」(啓林館)
未来	⇒第2学年「はこの形」「三角形と四角形」(啓林館)

### 3 単元の目標

○ 色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、いろいろな形をつくることができる。 (知識及び技能)

○ 図形についての基本的な見方・考え方を身につけることことができる。 (思考力、判断力、表現力等)

○ 色板や棒などを使っていろいろな形をつくることに、興味・関心をもち、意欲的に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画 (全5時間)






次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○色板を並べて、教科書と同じ形をつくり、他のいろいろな形をつくる。	◇いろいろな形をつくることに、興味・関心をもち、色板でいろいろな形をつくることことができる。【主体的】
	2	●色板を使って影絵の形をつくり、何枚でできるかを考える。	◇影絵の形を観察して、色板の並べ方や枚数を考えている。【思・判・表】
	3	○棒を並べた形が、何本でできているかを考える。	◇棒でいろいろな形をつくることことができる。【知・技】
	4	○点をつないでできる形を考え、いろいろな形をつくる。	◇点をつないでいろいろな形をつくることことができる。【知・技】
	5	○色板や棒を動かして形を変化させる。	◇形の同じところや違う所に着目して、色板や棒を動かしている。【思・判・表】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 1年3組教室

(1) 主眼

- 三角形の色板の並べ方について、色板を操作したり、補助線を引いたりする活動を通して、基本の三角形を用いて色板の並べ方を考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 前時までの学習を振り返る。</p> <p>(2) 影絵になっていない㊦を方眼上に並べる。</p>  <p>(3) 学習課題をつかみ、見通しをもつ。三角形で構成された影絵㊧の問題を解く。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ いろいろをならべればわかる。</li> <li>・ 大きな三かくがある。</li> <li>・ 6まいりそう。</li> </ul>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○既習事項を用いて思考できるように、前時の学習内容を確認し、本時につながるポイントを掲示する。</li> <li>○㊦の問題を使って、方眼について知らせ、方眼上に並べる練習をする。</li> </ul> <p><b>「見通す」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が自分で色板を操作できるように、方眼プリント(児童の色板の大きさに合わせた物)を準備する。</li> <li>○見通しをもつことができるように、前時の問題と本時の問題を比べ、課題を明確にし、全体で見通しを確認する。</li> <li>○補助線を引くことで、並べ方を考えられることに気付くことができるように、線を引いた図を提示する。</li> </ul>	15
めあて かげえにぴったりあう  のならべかたをかんがえよう。			
展開 【二人学び・学び合い】	<p>3 3つの問題(㊨、㊩、㊪)をグループに分かれて解く。</p>  <p>(1) 一人学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見通しをもとに、色板を並べたり、線を引いたりして並べ方を考える。</li> </ul> <p>(2) ペア学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色板の並べ方について友だちと伝え合う。</li> </ul> <p>(3) 全体学び</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えと比べながら、友だちの考えを聞く。</li> </ul>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○つまずきが見られる児童には、自分で考えることができるように、補助線を引いたプリントを渡す。</li> </ul> <p><b>「ペア学び」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○並べ方に着目できるように、友だちに補助線の引き方や自分の色板の並べ方を見せながら説明させる。</li> </ul> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○友だちと自分の並べ方を比較できるように、黒板に児童の色板を掲示する。</li> </ul>	18
終末 【まとめる】	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 今日の学習をまとめる。</p> <p>まとめ  のならべかたをくふうすれば、いろいろなかたちをつくることできる。</p> <p>(2) チャレンジ問題を解く。</p> <p>(3) リフレクションを行う。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○色板がなくても並べ方を考えられるように、補助線を引くことや、方眼1マスが色板2枚分で構成されていることを確認する。</li> </ul> <p>◇影絵の形を観察し、色板を操作したり、補助線を引いたりして、枚数を記入している。(プリント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時でわかったことやわからなかったこと等、学習の振り返りができるように、掲示物を使って振り返りの視点を提示する。</li> </ul>	12

## 第1学年4組 算数科学習指導案

指導者 高橋 真由美

### 1 単元名 たしざん（2）

### 2 単元観

○ 本単元は、加法に関わる数学的活動を通して、加法が用いられる場面を式にしたり、読み取ったりして、1位数の計算ができることが主なねらいである。

児童はこれまでに、「たしざん（1）」で、式のよみ方、かき方、計算の仕方を学習し、 $(1\text{位数}) + (1\text{位数}) = (10\text{以下の数})$ の計算をする力を身に付けている。

その上で、本単元「たしざん（2）」の学習で、繰り上がりのある場合の計算の仕方を考える学習をし、10の補数に着目して、加数を分解してたす繰り上がりのある計算ができる力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、第2学年で学習する「たし算とひき算のひっ算（1）」とつながるため、繰り上がりに気を付けて計算できることは、大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第1学年「たしざん（1）」（啓林館）
現在	⇒本単元「たしざん（2）」（啓林館）
未来	⇒第2学年「たし算とひき算のひっ算」（1）（啓林館）

### 3 単元の目標

○ 繰り上がりのある計算の仕方について理解し、 $(1\text{位数}) + (1\text{位数})$ の繰り上がりのある計算をすることができる。  
（知識及び技能）

○ 10の補数に着目して、加数を分解してたす方法で考えることができる。  
（思考力、判断力、表現力等）

○ 繰り上がりのある計算に興味をもち、「10の補数」という考えのよさに気づき、進んで計算しようとする。  
（学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全9時間）

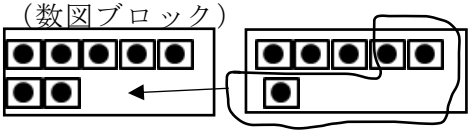
次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価基準
一	1	○数図ブロックの操作を通して、10の補数を利用した計算方法を見出す。	◇数図ブロックを操作して10のまとまりをつかって計算しようとしている。【主体的】
	2	○10の補数を利用した計算方法を考える。	◇加数を分解して、繰り上がりのあるたし算の仕方を考えたり説明したりしている。【思・判・表】
	3	○被加数が6以上の計算をする。	◇加数分解による計算ができる。 【知・技】
	4	●合併の場面のたし算を解く。	◇題意を捉え、考えを説明したり計算したりすることができる。【知・技】
	5	○被加数が5以下の計算をする。	◇被加数や加数に対する10の補数に着目すればよいことに気付いている。【思・判・表】
二	6	○計算カードを使って練習する。	◇繰り上がりのあるたし算ができる。 【知・技】
	7		
	8	○計算カードを並べ、きまりを調べる。	◇きまりを見つけようとしている。 【主体的】
三	9	○基本のたしかめや振り返りをする。	◇繰り上がりのあるたし算ができる。 【知・技】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：1年4組教室

(1) 主眼

- 合併の場面について、問題文に線を引いたり、数図ブロックを操作したりする活動を通して、題意を捉え、たし算を使って求めることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点◇評価基準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>(1)問題文を読み、たし算を使うと問題を解くことができることを把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>なしがあります。7にんが1こずつもらっても、まだ6このこっています。なしはぜんぶでなんこあるでしょう。</p> </div> <p>(2)課題解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数図ブロックをならべてみよう。</li> <li>・図を描いてみようかな。</li> </ul>	<p>○指導上の留意点◇評価基準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○学習のめあてをつかむことができるように、どんな式で求めることができるか話し合う場を設定する。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○見通しをもつことができるように、問題文に線を引いたり数図ブロックを操作したりしたことを確認する。</p>	8
展開 【一人学び・学び合い】	<p>2 問題の解き方を考え、問題を解く。</p> <p>(1)個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見通しを基にノートに自分の考えを図や文章でかく。</li> </ul> <p>(2)ペアで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを友だちに伝えたり、友だちの考えを聞いたりする。</li> </ul> <p>(3)全体で考えを整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを全体で発表する。</li> </ul>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○考えが浮かばない時は、自分の考えをつくることができるように、数図ブロックを並べたり図を描いたりすることを促す。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○自分の考えを深めたり、新たな事柄に気付いたりできるように、ペアで考えを交流する場を設定する。</p> <p>○問題文と立式の関係を捉えることができるように、ブロックを操作させながら説明させる。</p>	10
	<p>(数図ブロック)</p>  <p>◇題意を捉え、考えを説明したり計算したりすることができる。(ノート・発言)</p>	10	
終末 【まとめる】	<p>3 本時学習をまとめ、振り返る。</p> <p>(1)学習内容についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ もんだいをよくよんで ずをかくと しきをたてること ができる。</p> </div> <p>(2)適用問題を解く。</p> <p>(3)リフレクションを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の学習の中で、分かったことやもっと知りたいことを書く。</li> </ul>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○他の問題についても、まとめが使えることが実感できるように、類似問題を用意する。</p> <p>○本時で学んだことの振り返りができるように、キーワードを確認する。</p>	12

## 第2学年1組 生活科学習指導案

指導者 野元 慎之助

### 1 単元名 魚にえさを食べさせよう（ビスケット）

### 2 単元観

- 本単元は、プログラミング言語「ビスケット」でのプログラミング体験を通して、目的に合わせて、対象の動きを予想したり、必要な要素を選択肢から選んだりする力を身につけることが主なねらいである。

児童はこれまでに、第1学年で「ルビィのぼうけん」のアクティビティを通して、体を使いながらプログラミングの仕組みを体験し、プログラミングでは、目的に応じて必要な指示を正しい順序で行うことが大切であることを学習している。

その上で、実際のコンピュータを使用し、絵でプログラムを作成する「ビスケット」を体験し、目的に応じたプログラムを作成する楽しさを味わうとともに、コンピュータの仕組みを体感し、単純な動きを組み合わせ複雑な動きをプログラムする力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元での学習した内容は、第3学年で順次処理を組み合わせ、「オゾボット」に任意の動作をさせる学習へとつながるため大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	⇒第1学年「体をつかってプログラミングをたいけんしよう」 (ルビィのぼうけん)
現在	⇒本単元「魚にえさを食べさせよう」(ビスケット)
未来	⇒第3学年「オゾボットをゴールさせよう」(オゾボット)

### 3 単元の目標

- コンピュータは、正しく命令しなければ目的どおりに動かすことができないことや、複雑な動きは簡単な動きの組み合わせであることを理解することができる。  
(知識及び技能)
- 動きを予想しながら、目的に合わせて絵を動かすプログラムを考え、作品をつくらることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- プログラミングに関心を持ち、目的に応じた作品づくりに意欲的に取り組もうとする。  
(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画（全2時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○「ビスケット」の仕組みを使って、絵を動かす方法を知る。	◇プログラミング「ビスケット」の操作方法を理解できる。【知・技】
二	2	●「ビスケット」の仕組みを使って、魚がえさを食べるようにプログラムする。	◇任意の条件を作り、「ビスケット」で複雑な操作ができる。【思・判・表】 ◇目的を意識して、最後までやり遂げようとする態度を養う。【主体的】



5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：2年1組教室

(1) 主眼

- プログラミング言語「ビスケット」を使って、簡単な動きを組み合わせることを通して、魚がえさを食べるプログラムを作ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 教師の提示作品を見て、本時は、魚がえさを食べるプログラムを作ることを知る。	<b>「つかむ」段階</b> ○本時のゴールである魚やえさを動かした作品を見せることで、ゴールイメージを具体的なものとし、意欲をもたせる。	5
	2 本時のプログラムづくりのために、必要な既習の操作を想起する。	<b>「見通す」段階</b> ○前時学習した「ビスケット」の基本操作を再確認し、スムーズに主体的に取り組むことができるようにする。 ・「めがね」を使って、絵を動かす。 ・指ボタンを使って、絵を出す。	5
展開 【一人学び・学び合い】	めあて うごきを組み合わせると魚がえさを食べるようにプログラムしよう。		
	3 魚がえさを食べるプログラムを作る。 (1)個人で作品を作る。	<b>「一人学び」の段階</b> ○ゴール像と児童の理想像を素早く形にできるように、魚の絵を描かせる。 ○遅れる児童がいないように、話を区切りながら、順番に説明する。	10
	(2)ペアで操作方法や作った作品を交流する。	○作品を見せ合うだけでなく、困っていることを相談したり、操作方法を交流し合ったりして、自分の作品づくりに生かせるようにする。	5
	(3)全体で交流し、工夫している友達の作品と動かし方を学び合う。	<b>「学びあい」の段階</b> ○工夫が見られた児童の作品を方法とともに発表させ、そのよさを全体で共有する。	10
(4)友達に学んだことを自分の作品に生かす。	○学び合いを生かし、気づいたことを自分のプログラムに反映できるように、再度一人学びを位置づける。  ◇任意の条件を作り、「ビスケット」の複雑な操作をすることができる。 (作品)	5	
終末 (まとめる)	4 本時のまとめをする。 (1)学習内容をまとめる。	<b>「まとめる」段階</b> ○本時の学びを振り返ることができるように、むずかしい動きをつくるときのポイントを確認する。	5
	まとめ かんたんうごきを組み合わせると、むずかしいうごきを作ることができる。		
	(2)リフレクションを行う。	○新たな気づきや、学び合いで得たことについて考えを書かせる。	

第2学年2組 算数科学習指導案

指導者 藤野 巳穂

1 単元名 三角形と四角形

2 単元観

○ 本単元では、図形に関わる数学的活動を通して、「三角形」、「四角形」、「長方形」、「正方形」、「直角三角形」という基本図形について分類や意味を理解することや図形を構成する要素に着目し、平面図形の性質やその見方・考え方を働かせ、身の回りのものの形を生活や学習に活用しようとする態度を養うことが主なねらいである。

児童はこれまでに、第1学年で身の回りにある具体物からものの形に着目し、特徴を捉えたり具体的な操作を通して、立体図形を弁別してきた。また、立体図形の面の形に着目し、「さんかく」「しかく」などの言葉で図形の構成について考える力を身に付けている。その上で、「三角形」、「四角形」、「長方形」、「正方形」、「直角三角形」という基本図形の名称に関する用語とその定義に基づいて学習し、弁別や構成を行うことで理解を深め、平面図形の特徴を図形を構成する要素に着目して捉えたり、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、第3学年で学習する「三角形」とつながるため、調べたり説明したりする活動を通して図形の見方や考え方を身に付けることは大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第1学年「かたちづくり」(啓林館)
現在	⇒本単元「三角形と四角形」(啓林館)
未来	⇒第3学年「三角形」(啓林館)

3 単元の見目標

○ 三角形、四角形、及び、長方形、直角三角形の意味を理解し、これらを弁別することができる。また、点を直線でつないたり、紙を折ったり方眼紙を使ったりして、三角形、四角形、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。(知識及び技能)

○ 三角形、四角形の弁別について、直線の数に着目して考えることができる。(思考力、判断力、表現力等)

○ いろいろな三角形や四角形を作ったり、身の回りにあるものの形の中から、三角形や四角形を見つけようとする。(学びに向かう力、人間性等)

4 単元指導計画(全9時間)

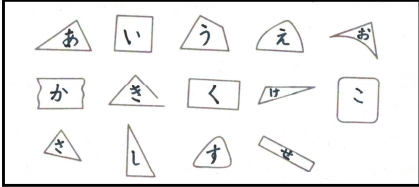
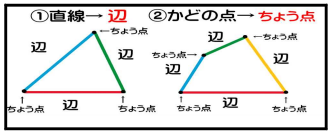
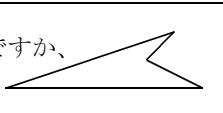
次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○動物を直線で囲み、できた形を2つの仲間に分け、「三角形」と「四角形」の定義を知り、三角形と四角形について調べていくという課題をつかむ。	◇三角形と四角形について理解し、点と直線をつないで作ることができる。【知・技】 ◇三角形と四角形に関心を持ち、意欲的に調べようとしている。【主体的】
	2	●三角形と四角形を見つけ、そのわけを考え、説明し合う。	◇三角形や四角形に分けたり考えを説明したりしている。【思・判・表】 ◇三角形と四角形の頂点や辺について理解している。【知・技】
	3	○三角形を2つの図形に分け、切り取る。 ○2つの三角形、三角形や四角形の作り方を話し合う。	◇図形の構成要素や切り方に着目して、どのような形ができるのかを考えたり説明したりしている。【思・判・表】
二	4	○紙を折って、本やノートのかどの形を作り、「直角」を知り、身の回りから直角を見つけ、三角定規で確かめる。	◇かどの形を作ることができ、直角の意味を理解している。【知・技】
	5	○紙を折って長方形を作ることを通して、長方形について理解する。	◇長方形について理解している。【知・技】 ◇図形の構成要素に着目して、長方形の性質を調べている。【思・判・表】
	6	○長方形の紙を切って、できた形の角の形や辺の長さを調べて、正方形について理解する。	◇図形の構成要素に着目して、正方形の性質を調べている。【思・判・表】
	7	○長方形や正方形の紙を2つに分けて、できた形の特徴を、角の形に着目して調べ、「直角三角形」の用語と定義を知る。	◇図形の構成要素に着目してできた三角形の特徴を調べようとしている。【主体的】 ◇直角三角形について理解し、弁別することができる。【知・技】
	8 9	○方眼紙に長方形、正方形、直角三角形をかいたり、模様を見て作り方を考えたりしながら実際に作る。	◇定義に基づいて、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。【知・技】 ◇いろいろな模様を作り、平面の広がりを感じる。【思・判・表】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 2年2組教室

(1) 主眼

- 三角形や四角形について構成要素に着目し、仲間分けをする活動を通して、弁別の仕方を考え説明することができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	<p>1 本時の課題を知り、めあてを確認する。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 問題を提示しめあてを確認する。</p> 	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時を振り返り、三角形と四角形の定義を確認するために、カードを提示する。</li> </ul> <p><b>「見通す」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題を把握するために、図形の拡大図を提示し、仲間分けしていくことを知らせる。</li> <li>○三角形、四角形、どちらでもないものが何個あるのかを予想させる。</li> </ul>	7
<p>めあて 三角形や四角形の見つけ方を考えよう。</p>			
展開 【一人学び・学び合い】	<p>2 三角形と四角形を見つけ、その理由を考える。 (1) 各自、一人で考える。 図形を仲間分けし、その理由も考える。 (2) ペアで考えを伝え合う。</p> <p>3 それぞれの考えを発表し、交流する。 (1) 三角形と四角形、どちらでもない形のグループにどのように分けたかを発表する。 (2) 分け方について、理由を発表し合い検討していく。</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○つまづいている児童には、三角形と四角形の定義を確認させる。</li> </ul> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が考えた分け方についてペアで話し合わせることで、自分の考えを深めたり見直したりできるようにする。</li> <li>○三角形や四角形の条件は、それぞれが             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「3つ」「直線」「囲まれている」</li> <li>・「4つ」「直線」「囲まれている」</li> </ul>             ことを明確にさせる。</li> <li>○意見が分かれた図形に視点を当て、話し合わせる。</li> </ul> <p>◇図形の構成要素に着目し、三角形や四角形、どちらでもない形を弁別し、理由を説明することができる。 (ワークシート、発言)</p>	8 20
終末 【まとめる】	<p>4 本時学習をまとめ、ふり返る。 (1) 学習内容についてまとめる。 「辺」「頂点」の用語を知る。</p>  <p>まとめ 三角形は、3つの辺でかこまれていて、ちょう点が3つあるのか、四角形は、4つの辺でかこまれていて、ちょう点が4つあるのかを調べると、見つけることができる。</p> <p>(2) 適用問題を解く 【もんだい】 この図形は、三角形ですか、四角形ですか。</p>  <p>(3) リフレクションを行う。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「辺」、「頂点」の用語を知らせ、学習内容をまとめるようにする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○まとめを活かしながら説明できるように、適用問題に取り組みさせる。</li> <li>○学び合いを通して、考えたことや分かったことなどを書かせ、次時につなげる。</li> </ul>	10

## 第2学年3組 算数科学習指導案

指導者 當房 真奈美

### 1 単元名 かけ算（2）

### 2 単元観

○ 本単元は、数量の関係に着目し、計算の意味や仕方を考え、計算に関して成り立つ性質を見だし、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすることが主なねらいである。

児童はこれまでに、第1学年で「おなじかずずつ」を学習し、かけ算やわり算の素地を身に付けている。その上で、かけ算について、アレイ図を使った活動を通して九九を構成したり、かけ算を使って問題を解決したりすることができる力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第3学年で学習する「九九の表とかけ算」とつながるため、数量の関係に着目し計算について考えることで、計算が簡単になったり、計算の確かめができたりするという数学のよさに気付き、これらの方法を学習に活用しようとする態度を養うことは大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第1学年「おなじ かずずつ」(啓林館) 第2学年「かけ算(1)」(啓林館)
現在	⇒本単元「かけ算(2)」(啓林館)
未来	⇒第3学年「九九の表とかけ算」(啓林館)

### 3 単元の目標

- アレイ図を使った九九の構成の仕方やかけ算が用いられる場面について理解する。また、かけ算の式に表したり、九九を唱えたりして、問題を解くことができる。 (知識及び技能)
- アレイ図をもとに、かける数が1増えると積はかけられる数だけ増えることを使って、九九を構成することができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- かけ算や九九のよさがわかり、進んで用いようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画(全12時間)

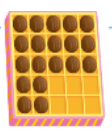
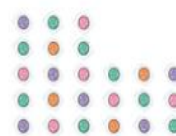
次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1～8	○6～9、1の段の九九の構成と唱え方を知り、練習と適用題を解く。	◇アレイ図から乗数が1ずつ増えると、かけられる数だけ増えることに気づき、6～9、1の段の九九の構成を考えることができる。【思・判・表】 ◇九九を用いて、適用問題を解くことができる。【知・技】
	9	○かけ算の問題作りを通して、かけ算の理解を深める。	◇かけ算で表される場面を正しく判断し、かけ算の問題を考えたり、かけ算になるわけを説明したりしている。【思・判・表】
	10	○練習問題を解く。	◇九九を用いて、適用問題を解くことができる。【知・技】
二	11	○問題文から数量関係を考え、乗法と加法、乗法と減法を使って解決する。	◇順序よく考えて、乗法と加法や減法を組み合わせる問題を解決する方法を考えることができる。【思・判・表】
三	12	●図を見て、基準量となる数のまとまりを見だし、かけ算を活用して、解決する。	◇同じ数のまとまりに着目して、かけ算を使って考えたり説明したりしている。【思・判・表】 ◇いろいろな方法を考えたり、考え方の違いや似ているところを見つけようとしていたりしている。【主体的】

5 本時 令和4年11月4日（金） 5校時 於：2年3組教室

(1) 主眼

- L字型に並んだものの数を求める場面において、図や式を使って友だちと考えを伝え合う活動を通して、同じ数のまとまりに着目し、かけ算を使って考えたり説明したりすることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 前時の学習を振り返る。</p> <p>(2) 問題と絵を見て、問題場面をとらえ、見通しをもつ。</p> <p>1 はこの中にチョコレートは何かありますか。</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ数ずつになっている。</li> <li>・かけ算とたし算を使うと思う。</li> </ul>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題場面をとらえることができるように、アレイ図を見て、●の数を考えさせる。</li> </ul> <p><b>「見通す」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○箱の中のチョコレートは、全てが同じ数ずつ並んでいないことを確認する。</li> <li>○見通しがもてるように、かけ算で表せる部分があることに気付かせる。</li> </ul>	5
展開【二人学び・学び合い】	めあて 同じ数のまとまりをみつけて、かけ算を使って考えよう。		
	<p>2 問題の解き方を考え、解く。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図や式を使って考える。</li> </ul> <p>(2) ペアで自分の考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを図や式をつかって、伝えたり、分からないところや違うところを聞いたりする。</li> </ul> <p>(3) 全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えと友だちの考えの似ているところを話し合う。</li> </ul>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○同じ数になる部分を見つけることができるように、図を印刷したワークシートを用意し、かけ算になる部分を囲ませてから、式に書いて計算させる。</li> </ul> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えや友だちの考えの似ているところや違うところを比べられるように、ワークシートの図を見せながら説明する場を設定する。</li> <li>○ひき算を使った式を提示して、かけている部分に目をつけた考え方で求めることができることに気づかせる。</li> </ul> <p>◇同じ数のまとまりに着目して、かけ算を使って考えている。 (ワークシート)</p>	10 5 15
終末【まよめる】	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 学習内容についてまとめる。</p> <p>まとめ きちんとそろってなくても、かけ算であらわすことができるぶぶんを見つけてもとめることができる。</p> <p>(2) 練習問題を解く。</p> <p>9 あめはぜんぶで何ありますか。 かけ算をつかって もどめましょう。</p>  <p>(3) リフレクションを行う。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○かけ算を使って考えるよさを確認できるように、図を使って同じまとまりを見つけたことを振り返りながらまとめる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>○同じまとまりに着目して問題を解くことができるように、同じ数のまとまりに印をつけるように声かけをする。</li> <li>○本時学習での学びを自覚できるように、リフレクションの視点を示す。</li> </ul>	10

### 第3学年1組 外国語活動学習指導案

指導者 中村 公香

#### 1 単元名 What do you like? (C-L Time)

#### 2 単元観

- 本単元は、何が好きかを尋ねたり答えたりする活動を通して、それらの表現に慣れ親しむとともに、相手に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図ることが主なねらいである。児童はこれまでに、あいさつや簡単な自己紹介の仕方、数を表す表現等を学習し、それらの表現に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする力を身に付けている。その上で、相手や自分のことに関して尋ねたり答えたりする表現について学習し、相手に伝わるように工夫しながらやり取りを行う力を身に付けることは、コミュニケーションを図る素地となる資質、能力を育成する上で大変意義がある。また、本単元で学習した内容は、第4学年のお気に入りの場所を紹介する学習につながる。また、高学年で学習する外国語科「その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うこと」とつながるため、尋ねたり答えたりする体験を通して達成感を味わわせることは、大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	第3学年「I like blue.」(文部科学省)
現在	⇒本単元「What do you like?」(文部科学省)
未来	⇒第4学年「This is my favorite place.」(文部科学省)

#### 3 単元の目標

- 身の回りの物の言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむことができる。(知識及び技能)
- 身の回りの物の言い方から、日本語と英語の音声の違いに気付くことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 自分や相手が好きな物について、相手に伝わるように工夫して、積極的に尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。(学びに向かう力、人間性等)

#### 4 単元指導計画 (全5時間)

時	○主な学習活動 (内容) 【●本時】	◇主な評価規準
1	○身の回りにある物や、好きな物の尋ね方を知る。	◇日本語と英語の音声の違いに気付いている。 【思・判・表】
2	○何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	◇何が好きかを尋ねたり答えたりしている。 【知・技】
4	○相手に伝わるように工夫して何が好きかを尋ねたり答えたりする。	◇友だちに伝わるように工夫しながら、好きな物を尋ねたり答えたりしている。【学びに向かう力】
5	●相手に伝わるように工夫しながら自己紹介をする。(CL-time)	◇相手に伝わるように工夫しながら積極的にやり取りをしている。【学びに向かう力】


#### 5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：ランチルーム

##### (1) 主眼

- 自分や相手の事柄について、お互いに自分が好きなものを紹介し合う活動を通して、相手に伝わるように、工夫しながら尋ねたり答えたりすることができる。

##### (2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準 (方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 前時を振り返り、本時学習のめあてを確認する。	「つかむ」段階 ○小学生が中学生を手本にしたいと思えるように、中学生が前時の学習のやりとりをデモンストレーションする場を設定する。	3
	2 教師のデモンストレーションを見て、見通しを持つ。	「見通す」段階 ○小学生、中学生に本時のゴールイメージを持たせるために、教師が役割分担をしてデモンストレーションをする。 ○相手に伝わるような工夫 (アイコンタクト、グッドボイス、リアクション) の大切さを確認する。	2

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">展開【ひとり学び・学び合ひ】</p>	<p>めあて 相手に伝わるようにくふうしながら、自分の好きなものをしょうかいしよう。</p>		
	<p>3 中学生とやりとりをしながら名刺を作る。</p> <p><b>【自己紹介の流れ】</b>  A: Hello. What's your name?  B: My name is Yurie. (名前)  Y U R I E, Yurie. (つづり)  A: OK, Yurie.  What color do you like? (好きな色)  B: I like red.  A: Oh, red. It's nice color.  What animals do you like? (好きな動物)  B: I like dogs.  A: Oh, really? I like dogs too! / Me too!  B: See you.  A: See you.</p> <p><b>【小学生用の名刺カード】</b></p> <p>My name is _____  I like _____ .  I like  .  See you !</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○名刺カード作成の際、1枚目を中学生に作成してもらうことで、小学生が名刺を作る手順や自分の名前のつづりを確認できるようにする。</li> <li>○2枚目以降、小学生が自分で記入する際、名前のつづりをゆっくり言いながら書かせるよう中学生に指示する。</li> <li>○名前のつづりを中学生に伝える時は、相手に分かりやすくはっきり、ゆっくり伝えるように小学生に確認する。</li> <li>○小学生用の名刺カードは、好きな色は色鉛筆で塗らせ、好きな動物はイラストから選択できるように作成しておく。</li> <li>○デモンストレーションをしながら名刺カードを作成することで、名刺交換時のやり取りが何度も繰り返し練習できるようにする。</li> <li>○名刺カードの記入が難しい児童のフォローをする。</li> </ul>	<p>1 2</p>
	<p>4 中学生と一緒に自己紹介と名刺交換の練習をする。</p> <p>5 中学生と自己紹介をし合いながら、名刺を交換する。</p>	<p><b>「学び合い」の段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し練習をさせ、小学生の良いところを随時中学生から賞賛してもらうことで、自信をもってやり取りができるようにする。</li> <li>○中学生が座席を移動し、自己紹介の相手が交代できるようにする。</li> <li>○できるだけ多くの自己紹介ができるように自己紹介が苦手な児童のフォローをする。</li> <li>○活動中、アイコンタクト、グッドボイス、リアクションを意識して活動ができている児童を紹介することで、相手に伝わるような工夫の大切さが再確認できるようにする。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">◇相手に伝わるように工夫しながら、積極的にやり取りをしている。 (行動観察、ワークシート)</p>	<p>8</p> <p>1 5</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">終末【まとめる】</p>	<p>6 活動の振り返りを行う。</p> <p>(1) 中学生は小学生の自己紹介を評価し、良かった点と改善できる点を発表する。</p> <p>(2) 小学生の代表者は本時学習の感想を発表する。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相手に伝わるよう工夫する姿や積極的にコミュニケーションする態度など、小学生のよかったところを中学生に称賛してもらう。</li> </ul>	<p>5</p>
<p>まとめ 表じょうやジェスチャーをくふうすると、相手に伝わりやすい。</p> <p>(3) リフレクションをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生から賞賛してもらったことや自分が相手に伝わるよう工夫したことを書かせる。</li> </ul>		

## 第3学年2組 算数科学習指導案

指導者 大久保 邦代

### 1 単元名 三角形

### 2 単元観

- 本単元は、図形を構成する要素の関係に着目し、辺の長さの相等や角の大きさの相等に着目して正三角形や二等辺三角形について知るとともに、角についても知り、図形を構成する要素に着目し、更にその観点を他の図形にも用いようとする態度を養うことが主なねらいである。

児童はこれまでに、第2学年「三角形と四角形」で、基本図形として、3本の直線で囲まれている形を三角形、4本の直線で囲まれている形を四角形ということについて学習してきた。また、具体的な操作活動を通して直角について学習し、三角形や四角形、正方形、長方形、直角三角形について図形を構成する辺や頂点の数、直角に着目し、図形を弁別する力を身に付けている。

その上で、図形を構成する要素の関係や、辺の長さや角の大きさの相等に着目して正三角形や二等辺三角形を弁別することを学習する。図形を構成する要素に着目し、更にその観点を他の図形にも用いようとする力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第4学年で学習する平行四辺形、ひし形、台形とながるため、図形を構成する要素に着目し、図形の性質を基に弁別する力を身につけることは大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第2学年「三角形と四角形」(啓林館)
現在	⇒本単元「三角形」(啓林館)
未来	⇒第4学年「角とその大きさ 垂直・平行と四角形」(啓林館)

### 3 単元の目標

- 二等辺三角形、正三角形の定義や性質を理解し、コンパスを使って、二等辺三角形、正三角形をかくことができる。(知識及び技能)
- 辺の長さによって三角形を分類し、定義をもとに、二等辺三角形や正三角形について説明することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 身のまわりから三角形を探し、それを分類することができる。(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画(全8時間)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○色棒を使って、三角形をつくる。	◇長さの異なる色棒を使って、いろいろな三角形をつくっている。【主体的】
	2	●三角形の分類と二等辺三角形、正三角形の定義を知る。	◇二等辺三角形と正三角形、辺について知り、分類することができる。【知・技】
	3	○コンパスを使って、二等辺三角形と正三角形を作図する。	◇二等辺三角形と正三角形を作図することができる。【知・技】
	4	○円を使って二等辺三角形、正三角形をつくる。	◇二等辺三角形や正三角形になるわけを考え説明する。【思・判・表】
	5	○色紙を使って、二等辺三角形、正三角形をつくる。	◇色紙を使って、二等辺三角形、正三角形をつくることができる。【主体的】
二	6	○角の定義を知る。	◇等しい角を見つけることができる。【知・技】
	7	○三角定規の角の大小比較をする。	◇角の大きさが辺の長さによらないことを理解している。【知・技】
	8	○正三角形、二等辺三角形の敷き詰めをする。	◇正三角形を敷き詰めて模様をつくることができる【知・技】




5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 3年2組教室

(1) 主眼

- 辺の長さに着目して三角形の仲間分けをする活動を通して、二等辺三角形や正三角形を弁別することができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 問題をつかむ。</p> <p>三角形をいくつかのなかまに分けましょう。</p>  <p>(2) 見通しをもつ。</p>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○辺の長さに着目することができるように、前時に3色の棒を使って三角形を作ったことを想起させる。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○辺の長さに目をつけて三角形の仲間分けを確認する。</p>	5
展開【一人学び・学び合い】	<p>めあて 辺の長さに着目して三角形のなかま分けをしよう。</p> <p>2 三角形を分ける。</p> <p>(1) 三角形の仲間分けをする。</p> <p>(2) どんな三角形の仲間になったか、全体で話し合う。</p> <p>3 二等辺三角形、正三角形の定義を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二等辺三角形 2つの辺の長さが等しい三角形</li> <li>・正三角形 3つの辺の長さがみんな等しい三角形</li> </ul>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○三角形を操作させながら、仲間分けをさせる。</p> <p>○他の人にも説明できるように、理由を考えながら仲間分けをさせる。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○相手に自分の考えが分かるように、自分が仲間分けしたものを提示して、仲間分けの理由も説明させる。</p> <p>○どのように仲間分けをしたか全体に発表するために、ロイロノートで自分の考えを提示し、説明させる。</p> <p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○それぞれの三角形の定義を理解するために、二等辺三角形、正三角形、その他の三角形の性質を確認する。</p> <p>○二等辺三角形、正三角形の名称の意味を理解できるように、二等辺三角形、正三角形の定義を振り返らせる。</p>	5  10
	<p>4 練習問題に取り組む。</p> <p>(1) コンパスを使って、二等辺三角形、正三角形を見つける。</p> <p>(2) 見つけた三角形を発表する。</p> <p>5 学習のまとめをする。</p> <p>まとめ 二等辺三角形や正三角形を見分けるためには、辺の長さに目をつけるとよい。</p>	<p>○二等辺三角形、正三角形の性質の理解を強化するため、コンパスを使って長さを測り取る活動を設定する。</p> <p>◇辺の長さに着目して、三角形を分別しようとしている。(発言・ノート)</p> <p>○二等辺三角形、正三角形のどちらになるのか理由を明確にして説明させる。</p> <p>○どこに着目すれば、二等辺三角形、正三角形に分けられるか、三角形の定義を振り返りながら、まとめを行う。</p>	20
終末【まとめる】	<p>6 リフレクションをする。</p>	<p>○今日の学習で学んだことや、新たな課題について、振り返りを書いて交流させ、次時につなげる。</p>	5

## 第3学年3組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 中嶋 雄三

### 1 単元名 オゾボットをゴールさせよう（オゾボット）

### 2 単元観

- 本単元は、オゾボットに意図した動きを実現させてゴールまで導くため、友達と協働して試行錯誤を繰り返し、正しい順次処理の組み合わせを作ることが主なねらいである。

児童はこれまでに第2学年でプログラミング言語「ビスケット」を使って、意図する一連の活動を実現するため、必要な手順があることに気付き、構成や組み合わせを考える力を身に付けている。

その上で、第3学年において、オゾボットの仕組みについて知り、オゾボットをゴールさせるために、試行錯誤しながら意図する一連の動作を順序立てて、構成する力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第4学年で学習するスクラッチを活用し、問題解決の手順を論理的に組み立てることやプログラムの動きのよさに気づくことにつながり、大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第2学年「魚にえさを食べさせよう」（ビスケット）
現在	⇒本単元「オゾボットをゴールさせよう」（オゾボット）
未来	⇒第4学年「風船あてゲームを作ろう」（スクラッチ）

### 3 単元の目標

- 順次処理を組み合わせ、コンピュータに意図した処理を行うための指示を出すことができる。 （知識及び技能）
- プログラミングを体験しながら、意図した活動を実現するための手順を作ることができる。 （思考力、判断力、表現力等）
- 課題を達成するために、友達と協力して試行錯誤を繰り返しながら、ゴールまで導こうとする。 （学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全3時間）

時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
1	○オゾボットを動かす仕組みを知り、基本的なプログラムを作る。	◇オゾボットの仕組みを理解し、簡単なプログラムを作ってオゾボットを動かすことができる。【知・技】
2	●オゾボットの基本的な仕組みを活用し、課題のルートを通して、オゾボットをゴールさせる。	◇オゾボットをゴールさせるために意図した活動を実現するための手順を作ることができる。【思・判・表】 ◇試行錯誤しながら、最後までやり遂げようとしている。【主体的】
3	○プログラミングをして、オゾボットをゴールさせる。（応用編）	◇オゾボットをゴールさせるために、動きの原因や結果を考え、その関係性に気づき、筋道立ててプログラムを作ることができる【思・判・表】 ◇解決の方策を試行錯誤し、最後までやり遂げようとしている。【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 3年3組教室

(1) 主眼

- オゾボットに意図した動きを実現させてゴールまで導くため、友達と協働して試行錯誤を繰り返し、正しい順次処理の組み合わせを作ることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 前時、プログラミングをしてオゾボットを動かしたことを想起する。</p> <p>(2) オゾボットを動かす仕組みを確認し、ゴールさせるための見通しをもつ。</p>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○既習の基本的なオゾボットのプログラムを振り返り、本時課題の「迷路」を提示する。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○オゾボットを動かす仕組みについて、既習事項を再確認することで、課題解決への見通しをもたせる。</p>	5
展開【一人学び・学び合い】	<p>めあて プログラミングをして、オゾボットをゴールさせよう！</p> <p>2 オゾボットがゴールできるようにプログラミングする。</p> <p>(1) シートAのルートで、オゾボットがゴールできるようにプログラムを考える。</p> <p>(2) 実際にオゾボットを動かしながら、考えたプログラムについてグループで交流する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ曲がらないのかな</li> <li>・右へ曲がるにはどうすればいいんだろう</li> <li>・どの道を選べばゴールに行けるかな</li> </ul> </div> <p>(3) シートBのルートで、ゴールできるようにグループでプログラムを考える。</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○問題シートA・命令表・シールは全員に配付し、各自が自分の考えでシートを作成できるようにする。</p> <p>○まずは、命令表をもとにプログラムできるように、オゾボットは使わず、シート上のみで考えさせる。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○シートを持ち寄り、作成の意図を説明しながら、共通点や相違点を交流させる。</p> <p>○オゾボットを使って確かめながら、意図した通りに動かないのはなぜかをグループで考える。</p> <p>○困っているグループについてはビデオ(ロイロノート)で紹介し、解決方法を全体で考える。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>◇オゾボットの仕組みを使って、ゴールさせるプログラムをつくることができる。(シート)</p> </div> <p>○新たな問題について、グループで協力してオゾボットをゴールさせるプログラムを作成させる。</p>	5  20
	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 今日の学習をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 命令を組み合わせることによって、オゾボットを思いどおりに動かすことができる。</p> </div> <p>(2) リフレクションをする。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○どのようにすればうまくプログラミングできたか、ポイントを出させる。</p> <p>○新たな気づきや、学び合いで得たことについて考えを書かせ、次時につなげる。</p>	10  5
終末【まとめる】			

## 第4学年1組 算数科学習指導案

指導者 長谷 恵美

### 1 単元名 面積

### 2 単元観

○ 本単元は、正方形や長方形といった図形の面積について、単位と測定の意味を理解し、面積の単位や図形を構成する要素に着目して面積の求め方について考え、それらを用いることができるようにすることが主なねらいである。

児童はこれまでに、広さ、長さ、かさ、重さなどの学習において、量の比較や測定の経験をし、普遍単位を用いて表現する力を身に付けている。

その上で、正方形や長方形の面積の求め方を考えるとともに、面積の求め方を振り返り、効率的・能率的な求め方を探求し、公式として導き、導いた公式を活用する力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、第5学年で学習する「平面図形の面積」とつながるため、三角形や平行四辺形、ひし形及び台形の面積について考える際にも、長方形や正方形の面積の求め方に帰着し、計算によって求めることができることを理解することは、大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	第1学年「大きさをくらべ(2)」(啓林館)
現在	⇒本単元「面積」(啓林館)
未来	⇒第5学年「面積」(啓林館)

### 3 単元の目標

○ 面積の単位 ( $\text{cm}^2$ 、 $\text{m}^2$ 、 $\text{km}^2$ ) について知り、正方形及び長方形の面積の計算による求め方について理解することができる。 (知識及び技能)

○ 面積の単位や図形を構成する要素に着目し、図形の面積の求め方を考えるときに、面積の単位とこれまでに学習した単位との関係を考察することができる。 (思考力、判断力、表現力等)

○ 図形の面積を表すことに興味をもち、長方形や正方形の面積公式を利用して、身のまわりにあるものの面積を求めようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画 (全10時間)

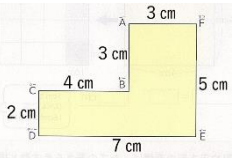
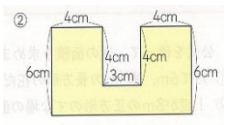
次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○花壇の広さの比べ方を考える。	◇広さの比べ方を考えようとしている。 【主体的】
	2	○方眼紙上にかかれた形の面積を求めたり、かいたりする。	◇ $\text{cm}^2$ の意味を理解し、それを使って面積を表すことができる。 【知・技】
	3	○長方形や正方形の面積を計算で求める方法を考え公式を知る。	◇公式を用いて、長方形や正方形の面積を求めることができる。 【知・技】
二	4	●L字型などの複合図形の面積の求め方を考える。	◇複合図形の面積の求め方を考え、説明することができる。 【思・判・表】
三	5	○面積の単位 $\text{m}^2$ を知る。	◇ $\text{m}^2$ の意味を理解し、面積を求めることができる。 【知・技】
	6	○ $\text{m}^2$ と $\text{cm}^2$ の単位間の相互の関係を知る。	◇ $\text{m}^2$ と $\text{cm}^2$ の関係を理解することができる。 【知・技】
	7	○ $1\text{m}^2$ の量感を身につける。	◇ $1\text{m}^2$ の量感をとらえようとしている。 【主体的】
	8	○ $\text{km}^2$ を知り、 $\text{m}^2$ の単位間の関係を知る。	◇ $\text{km}^2$ と $\text{m}^2$ の関係を理解することができる。 【知・技】
四	9	○a、haを知り、 $\text{m}^2$ の単位間の関係を知る。	◇a、haについて理解することができる。 【知・技】
五	10	○学びのまとめをする。	◇学習内容を理解できている。 【知・技】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 4年1組教室

(1) 主眼

- 複合図形の面積について、図、式、言葉を使って説明する活動を通して、長方形や正方形の求積公式を使えばよいことに気づき、「速く、簡単に、正確に」の視点で面積を求めることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時	
導入 【つかむ・見通す】	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 前時学習を振り返り、本時の課題について知る。</p> <p>(2) 本時の課題解決に向けて見通しをもつ。</p> <p>【見通し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図形を分ける。</li> <li>・ 線を引く。</li> </ul> 	<p>○「つかむ」段階</p> <p>○課題をつかむことができるように、既習の図形と比べながら提示する。</p> <p>○「見通す」段階</p> <p>○見通しをもつことができるように、既習のどんな公式なら求められるかを問い、長方形や正方形の求積公式を意識できるようにする。</p>	7	
展開 【一人学び・学び合い】	<p>めあて 複合図形の面積の求め方を考え、説明しよう。</p> <p>2 凹の図形の求積方法について調べ。</p>  <p>(1) 見通しをもとに、自分の考えを書く。</p> <p>(2) 考えた解き方をグループで話し合う。</p> <p>(3) グループで考えた解き方を全体で交流する。</p>	<p>○「一人学び」の段階</p> <p>○自分の考えを明確化させるために、ロイロノートを活用し、書きこみができるようにする。</p> <p>○「学び合い」の段階</p> <p>○話し合いがしやすいようにロイロノートを活用し、自分の考えと友達の考えを比較できるようにする。</p> <p>○考えを深めることができるように、分かったことや質問など、発表する場を設定する。</p>	5	
	<p>①横に線を入れて3つの長方形に分けて求める。</p> $4 \times 4 = 16$ $16 \times 2 = 32$ $6 - 4 = 2$ $2 \times (4 + 3 + 4) = 22$ $32 + 22 = 54$ <p style="text-align: right;">54 cm<sup>2</sup></p>	<p>②縦に線を入れて3つの長方形に分けて求める</p> $6 \times 4 = 24$ $24 \times 2 = 48$ $6 - 4 = 2$ $2 \times 3 = 6$ $48 + 6 = 54$ <p style="text-align: right;">54 cm<sup>2</sup></p>	<p>③つぎたして、求める。</p> $6 \times (4 + 3 + 4) = 66$ $4 \times 3 = 12$ $66 - 12 = 54$ <p style="text-align: right;">54 cm<sup>2</sup></p>	10
	<p>(4) L字型と凹の図形の求め方を比べる。</p>	<p>○複合図形の面積を求める時には、「速く、簡単に、正確に」の視点で計算方法を選んで解く必要があることを確認する。</p> <p>◇分けたり、つぎたしたりして、複合図形の面積を求めることができる。(ロイロノート)</p>	5	
終末 【まよめる】	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 今日の学習をまとめる。</p> <p>まとめ 複合図形の面積は、長方形や正方形の形に分けたり、つぎたしたりして、公式を使って求める。</p> <p>(2) リフレクションを行う。</p>	<p>○「まよめる」段階</p> <p>○考えを整理できるように、キーワードとなる言葉を板書しておく。</p> <p>○今日の学習で学んだことや、発表を聞いて気づいたことなどを書かせ、次時につなげる。</p>	5	

## 第4学年2組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 石田 翔太

### 1 単元名 風船当てゲームを作ろう（スクラッチ）

### 2 単元観

○ 本単元は、コンピュータをより適切、効果的に活用していくため、スクラッチの仕組みを知り、コンピュータに自分が求める動作をさせるためのプログラムを、試行錯誤しながら考えることが主なねらいである。

児童はこれまでに、第3学年でオゾボットのプログラミングを学習し、事柄や意図する一連の動作の順序に沿って構成や組み合わせを考える力を身に付けている。

その上で、スクラッチの仕組みについて学習し、意図する一連の活動を実現するため、どのような動きの組み合わせが必要かを考え、まとまりを作ったり、自分の考えと理由の関係を明確にしたりする力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第5学年における Pepper の活用へとつながるため、問題解決の手順を論理的に組み立てることやプログラムの働きのよさに気づくことは大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第3学年「オゾボットをゴールさせよう」（オゾボット）
現在	⇒本単元「風船当てゲームを作ろう」（スクラッチ）
未来	⇒第5学年「Pepper を動かそう」（ロボブロックス）

### 3 単元の目標

- スクラッチの仕組みを理解し、意図する動きをさせるためのプログラムを考えることができる。（知識及び技能）
- 複数のキャラクターに、意図する一連の動きを実現するために、どのような部品を組み合わせることが必要かを考え、試行錯誤しながらプログラムをつくることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 課題を達成するために、試行錯誤して最後までやり遂げようとする。（学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全4時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○スクラッチの基本的な操作の仕方を知る。	◇基本的な操作の仕方を理解し、動作確認ができる。【知・技】
	2	○色々なブロックを使わせてスプライトの動きを知る。	◇意図する動きを実現するために思考することができる。【思・判・表】
二	3	○簡単なゲームを作りながら、追加要素を考える。	◇プログラムを論理的に思考し、実行することができる。【思・判・表】
	4	●風船当てゲームを作る。	◇試行錯誤し、自分の考えをよりよいものとしようとしている。【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：4年2組教室

(1) 主眼

- 風船当てゲームを作るために、条件分岐や変数等の様々な命令ができるブロックを組み合わせ、試行錯誤して自分の作品をよりよいものとしようとしている。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <p>(1) 本時の課題を知り、めあてを確認する。</p> <p>(2) これまでに学習したプログラムを確認し、本時の見通しをもつ。</p>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○ゴールイメージをもたせるため、教師がつくったゲームを見せる。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○課題に必要なブロックやその順序を考えさせるために、前時までの学習を振り返る。</p>	5
展開【一人学び・学び合い】	めあて 必要なブロックを組み合わせ、風船当てゲームをつくろう。		
	<p>2 風船当てゲームつくる。</p> <p>(1) どのブロックをどの順序で組み立てれば、ゲームができるか考える。</p> <p>(2) 考えたプログラムについてグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サルからボールが出てくるにはどうすればいいか。</li> <li>・ボールが当たった時に音はどうすれば鳴るか。</li> </ul> <p>(3) 全体で整理しながら、確認する。</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○実際の動きを確かめながら、動きや条件分岐・変数などのブロックを用いて、組み立てさせる。</p> <p><b>「学び合い」の段階。</b></p> <p>○プログラムに問題があれば、グループで試行錯誤しながら原因を追究させる。</p> <p>○行き詰っているグループについては、必要に応じて声掛けを行う。</p> <p>○ゲームを完成させることができたグループに、作ったゲームとそのプログラムについて説明させる。</p>	7
	<p>(4) 全体学びを生かし、自分たちのプログラムを改良する。</p>	<p>◇試行錯誤しながら、自分の作品をよりよいものとしようとしている。 (発言・作品)</p>	15
			8
終末【まとめる】	<p>3 本時学習をまとめ、学習を振り返る。</p> <p>(1) 学習内容をまとめる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>まとめ 必要なブロックの順番を考えながら組み立てると、ゲームを完成させることができる。</p> </div> <p>(2) リフレクションを行う。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○ゲームが完成するには、ブロックの順番を考えながら組み立てる必要があることを押さえる。</p> <p>○新たな気づきや、学び合いで得たことについて考えを書く。</p>	5

## 第4学年3組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 秋吉 光輝

### 1 単元名 みんなが安心して暮らせる街を

### 2 単元観

○ 本単元は、福祉・健康における現代的な諸課題を自分のこととして考え、よりよい解決に向けて自分の考えをもったり、行動したりすることができることが主なねらいである。

児童はこれまでに、視覚障がい者や歩行困難者の認知や理解を図るため、アイマスクや車いす体験をしたり、自分にできることを考えたりし、目や足の不自由な方への関心を高めている。

その上で、現代社会における人権課題について知り、障がいのある人や高齢者の思いや願いについて学習し、みんなが安心して暮らせる街にするために課題を解決しようとする力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、第5学年で学習する「世界に目を向けよう」へとつながり、世界における現代社会の諸課題に向き合うため、第4学年における本単元は大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	第3学年「手と手をつないで」(福祉・健康)
現在	⇒本単元「みんなが安心して暮らせる街を」(福祉・健康)
未来	⇒第5学年「世界に目を向けよう」(国際理解、福祉・健康)

### 3 単元の目標

○ 障がいのある方や高齢者の思いや願いを知り、その課題の解決に必要な知識・技能を身に付けることができる。  
(知識及び技能)

○ 障がいのある方や高齢者の抱える課題の解決方法を考え、タブレットを使って情報を収集したり、自分の考えをまとめたりし、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。(思考力、判断力、表現力等)

○ これまでの自分の生活を見直し、障がいのある人や高齢者の思いや願いを受け入れ、現代社会における人権課題の解決に取り組もうとする。  
(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画(全20時間)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	3	○日本の人権課題、障害のある人と高齢者の思いや願いを知り、課題を設定する。	◇障害者差別、高齢者差別の現状を知り、自己の課題を設定しようとしている。【主体的】
二	3	○パラスポーツと認知症について調べる。	◇進んで障害のある人や高齢者の思いを知ったり、パラスポーツを調べたりしようとしている。【主体的】
	6	○手話体験、パラスポーツ体験、高齢者疑似体験をする。	◇体験を通して、障害のある人と高齢者の思いや願いを理解することができる。【知・技】
	3	●バリアフリーについて調べる。 (本時1/3)	◇身近な施設や物のバリアフリーについて調べようとしている。【主体的】 ◇高齢者を取り巻く現状について知り、思いや願いを理解することができる。【主体的】
三	4	○これまで調べたことや体験したことをもとに、分かったことや考えたことをスライドにまとめる。	◇調べたことをスライドにまとめることができる。【思・判・表】
四	1	○スライドを使って発表する。	◇スライドにまとめたことを、発表することができる。【思・判・表】



5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：4年3組教室

(1) 主眼

- 学校やショッピングモール、身近なもののバリアフリーについて、タブレットを使って調べる学習を通して、どのような人のことを考えてつくられているのか整理・分析し、明らかになった考えや意見をまとめ、表現することができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 本時の課題をつかむ。 (1)学校やショッピングモール、身近なものの写真を提示し、普段の自分の行動を想起する。 (2)どんなバリアフリーのための工夫があるかを考え、見通しをもつ。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) <b>「つかむ」段階</b> ○本時の課題をつかめるように、バリアフリーの例を掲示する。 <b>「見通す」段階</b> ○見通しをもつことができるように、例についてどんな人のためのバリアフリーなのかを考えさせる。	5  2
	めあて 学校やショッピングモール、身近なものの中にあるバリアフリーのための工夫を見つけよう。		
展開 【一人学び・学び合い】	2 バリアフリーについて考える。 (1)公共施設や商業施設、身近なもののバリアフリーについて調べたいことを決める。 (2)取り上げたバリアフリーのための工夫についてグループで話し合う。 ・どんな人のためか ・どんな役に立っているか (3)情報の収集、整理・分析を行い発表する。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) <b>「一人学び」の段階</b> ○自分の課題を立てることができるように、掲示したもののバリアフリーについて考える。 <b>「学び合い」の段階</b> ○情報の収集に興味・関心をもって取り組むことができるように、グループで話し合う場を設定する。  ○情報の収集、整理・分析が行えるように、タブレットを活用し、発表するようにする。 ◇バリアフリーについて調べ、整理・分析し、表現することができる。(ロイロノート)	3  17  10
	3 本時学習をまとめ、学習を振り返る。 (1)学習内容をまとめる。	<b>「まとめる」段階</b> ○自分の考えをまとめ、新たな課題に気付くことができるように、バリアフリーはあらゆる人にとって役立っていることを押さえる。	3
終末 【まとめる】	まとめ 学校やショッピングモール、身近なもののバリアフリーは、あらゆる人にとっても役立っている。		
	(2)リフレクションを行う。	○次時、バリアフリーを利用する方の思いや課題について考えることができるように、バリアフリーの設備が十分生かされていない写真を提示し、考えを揺さぶる発問を行う。	5

## 第5学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 曾根 理史

### 1 単元名 経済体験学習：スチューデント・シティ

### 2 単元観

○ 本単元は、限られた資金・資材を効果的に運用する手段を考え、それらの中から自己の知識や情報に基づいて正しく判断・選択・決定する力を身に付け、自己の意思で進路選択や将来設計を行う資質・能力を育成することが主なねらいである。

児童はこれまでに、将来の夢を叶えるために必要な事を学習し、将来と今を結び付けて考える力を身に付けている。

その上で、社会の仕組みや経済の働き、お金や仕事について学習し、自由経済社会を自らの判断で生き抜く力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第7学年で学習する生活設計体験学習とつながるため、将来の生活設計や社会の仕組みについて理解を深める上で大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第4学年「思いを知り、思いを伝えよう（二分の一成人式）」
現在	⇒本単元「経済体験学習：スチューデント・シティ」※
未来	⇒第7学年「生活設計体験学習：ファイナンス・パーク」※

※公益財団法人ジュニア・アチーブメント日本が提供する経済体験学習です。

### 3 単元の目標

- 社会のしくみや経済の働きなどを具体的に理解することができる。（知識及び技能）
- 市民としての自覚を持ち意思決定することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 社会との関わり方を意識して将来設計しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全14時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○人はなぜ生きていくことができるのか考える。	◇社会と自分との関わりを考えることができる。【思・判・表】
	2	○生活とお金の関係、銀行の役割について考える。	◇銀行の役割を説明することができる。【思・判・表】
	3	●色々な仕事の役割と責任について考える。	◇「共存社会」の仕組みと仕事をする意義を理解することができる【知・技】
	4	○価格・コスト・利益の関係を考える。	◇モノやサービスの値段の決め方を理解することができる。【知・技】
	5	○ビジネスプラン作りの練習を行う。	◇会社の仕組みについて理解することができる。【知・技】
	6	○自分の会社のビジネスプランを作る。	◇ビジネスプランの作り方を理解することができる。【知・技】
	7	○スチューデント・シティへ行く準備をする。	◇仕事内容や電子マネーの使い方を考えることができる。【思・判・表】
二	8 ～ 13	○スチューデント・シティで体験活動を行う。	◇市民としての自覚を持ち、体験活動を行うことができる。【主体的】
三	14	○振り返りを行う。	◇学習したことをもとに、自分の将来について考えることができる。 【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 5年1組教室

(1) 主眼

- 「共存社会」について、様々な会社や公的機関同士の関係を把握することを通して、社会はお互いが仕事をして助け合っていて、この仕組みを保つために個人が仕事をする意義と責任があることを理解することができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 本時の課題をつかむ。 (1) 朝食でご飯を食べるまでにどれだけの人の仕事に関係しているか考える。 (2) 「共存社会」について知り、本時の課題をつかむ。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) <b>「つかむ」段階</b> ○児童が毎朝食べているご飯にも、たくさんの人と様々な仕事関わっていることに気づかせる。 <b>「見通す」段階</b> ○社会において、人は仕事を通して互いに支え合っているという「共存社会」について知らせ、どんな仕組みなのか興味をもたせる。	5
めあて 共存社会の仕組みについて考えよう。			
展開 【一人学び・学び合い】	2 会社と公的機関の違いについて知る。	○税金の使われ方の視点から「公的機関」についてとらえさせ、身近な具体例を「会社」「公的機関」に分けさせることで理解させる。	10
	3 個人・会社・公的機関のつながりについて考える。 (1) 具体例が「個人」「会社」「公共機関」のどの立場になるのかに着目して考える。 (2) 考えをそれぞれの立場を示しながら、グループで交流する。	<b>「一人学び」の段階</b> ○具体例がどの立場かが分からない児童には、それぞれの立場を示したヒントカードを与える。 <b>「学び合い」の段階</b> ○児童が説明しやすいように、拡大した関係図を提示する。 ◇「個人」「会社」「公的機関」相互の関係を理解することができる。 (ワークシート)	7 16
終末 【まとめる】	4 本時のまとめをする。 (1) 本時の学習をまとめる。	<b>「まとめる」段階</b> ○「共存社会」の仕組みは、個人が仕事をすることで支えられていることに気づかせる。	7
	(2) 振り返りシートにリフレクションを記入する。	○単元を通した振り返りシートを活用することで、単元全体の見通しをもたせ、学びの蓄積を自覚しながら、次時の学習の意欲をもたせる。	
まとめ 様々な会社や公的機関がお互いに仕事を通じて助け合うことで、共存社会の仕組みを支えている。どの仕事も大切。			

## 第5学年2組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 青山 由紀子

### 1 単元名 経済体験学習：スチューデント・シティ

### 2 単元観

○ 本単元は、限られた資金・資材を効果的に運用する手段を考え、それらの中から自己の知識や情報に基づいて正しく判断・選択・決定する力を身に付け、自己の意思で進路選択や将来設計を行う資質・能力を育成することが主なねらいである。

児童はこれまでに、将来の夢を叶えるために必要な事を学習し、将来と今を結び付けて考える力を身に付けている。

その上で、社会の仕組みや経済の働き、お金や仕事について学習し、自由経済社会を自らの判断で生き抜く力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第7学年で学習する生活設計体験学習とつながるため、将来の生活設計や社会の仕組みについて理解を深める上で大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第4学年「思いを知り、思いを伝えよう（二分の一成人式）」
現在	⇒本単元「経済体験学習：スチューデント・シティ」※
未来	⇒第7学年「生活設計体験学習：ファイナンス・パーク」※

※公益財団法人ジュニア・アチーブメント日本が提供する経済体験学習です。

### 3 単元の目標

- 社会のしくみや経済の働きなどを具体的に理解することができる。（知識及び技能）
- 市民としての自覚を持ち意思決定することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 社会との関わり方を意識して将来設計しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全14時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	●人はなぜ生きていくことができるのか考える。	◇社会と自分との関わりを考えることができる。【思・判・表】
	2	○生活とお金の関係、銀行の役割について考える。	◇銀行の役割を説明することができる。【思・判・表】
	3	○色々な仕事の役割と責任について考える。	◇「共存社会」の仕組みと仕事をする意義を理解することができる【知・技】
	4	○価格・コスト・利益の関係を考える。	◇モノやサービスの値段の決め方を理解することができる。【知・技】
	5	○ビジネスプラン作りの練習を行う。	◇会社の仕組みについて理解することができる。【知・技】
	6	○自分の会社のビジネスプランを作る。	◇ビジネスプランの作り方を理解することができる。【知・技】
	7	○スチューデント・シティへ行く準備をする。	◇仕事内容や電子マネーの使い方を考えることができる。【思・判・表】
二	8 ～ 13	○スチューデント・シティで体験活動を行う。	◇市民としての自覚を持ち、体験活動を行うことができる。【主体的】
三	14	○振り返りを行う。	◇学習したことをもとに、自分の将来について考えることができる。【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：5年2組教室

(1) 主眼

- 社会と自分自身との関わりを認識することで、人はなぜ生きていくことができるのかについて考え理解を深めることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 本時の課題をつかむ。 (1) 日常生活の場面が書かれた文章を読み、お金を支払った場面を見つける。 (2) 社会と自分とのつながりについて考えていくという本時学習の見通しをもつ。	<u>「つかむ」段階</u> ○様々な場面で社会と自分がつながっていることに気づかせるために、お金を支払っている場面を見つけさせる。 <u>「見通す」段階</u> ○生活の中でお金を支払うことで、自分たちが社会とつながっていることを確認する。	7
めあて 日常生活を振り返り、社会と自分との関わりを考えよう。			
展開 【一人学び・学び合い】	2 「モノ」と「サービス」の違いについて知る。	○お金を支払うものには、形として見える「モノ」と見えない「サービス」があることを知らせる。	5
	3 2つのうちのどちらかを選ぶ「選択＝意思決定」の場面について考える。 (1) 2つのうちどちらかを選ぶ場面について自分だったらどうするかを考える。 (2) それぞれの選択とその理由について交流する。	<u>「一人学び」の段階</u> ○どちらかを手に入れようとしたら一方を諦めなければならない場面があることに気付かせるために、一方しか選べない場面について考えさせる。 <u>「学び合い」の段階</u> ○選ばなかった方にも価値があることに気付かせるために、双方の意見に価値を認める。 ◇選ばなかった方にも価値があることを理解することができる。 (発言・ワークシート)	8 15
終末 【まとめる】	4 本時のまとめをする。 (1) 本時の学習をまとめる。	<u>「まとめる」段階</u> ○オポチュニティ・コストについての理解を深めるため、立場を変えると違った見方ができることを確認する。	10
	(2) 振り返りシートにリフレクションを記入する。	○単元を通した振り返りシートを活用することで、単元全体の見通しをもたせ、次時の学習への意欲をもたせる。	

## 第5学年3組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 梶原 直人

### 1 単元名 経済体験学習：スチューデント・シティ

### 2 単元観

○ 本単元は、限られた資金・資材を効果的に運用する手段を考え、それらの中から自己の知識や情報に基づいて正しく判断・選択・決定する力を身に付け、自己の意思で進路選択や将来設計を行う資質・能力を育成することが主なねらいである。

児童はこれまでに、将来の夢を叶えるために必要な事を学習し、将来と今を結び付けて考える力を身に付けている。

その上で、社会の仕組みや経済の働き、お金や仕事について学習し、自由経済社会を自らの判断で生き抜く力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第7学年で学習する生活設計体験学習とつながるため、将来の生活設計や社会の仕組みについて理解を深める上で大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	第4学年「思いを知り、思いを伝えよう（二分の一成人式）」
現在	⇒本単元「経済体験学習：スチューデント・シティ」※
未来	⇒第7学年「生活設計体験学習：ファイナンス・パーク」※

※公益財団法人ジュニア・アチーブメント日本が提供する経済体験学習です。

### 3 単元の目標

- 社会のしくみや経済の働きなどを具体的に理解することができる。（知識及び技能）
- 市民としての自覚を持ち意思決定することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 社会との関わり方を意識して将来設計しようとする。（学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全14時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○人はなぜ生きていくことができるのか考える。	◇社会と自分との関わりを考えることができる。【思・判・表】
	2	○生活とお金の関係、銀行の役割について考える。	◇銀行の役割を説明することができる。【思・判・表】
	3	○色々な仕事の役割と責任について考える。	◇「共存社会」の仕組みと仕事をする意義を理解することができる【知・技】
	4	○価格・コスト・利益の関係を考える。	◇モノやサービスの値段の決め方を理解することができる。【知・技】
	5	●ビジネスプラン作りの練習を行う。	◇会社の仕組みについて理解することができる。【知・技】
	6	○自分の会社のビジネスプランを作る。	◇ビジネスプランの作り方を理解することができる。【知・技】
	7	○スチューデント・シティへ行く準備をする。	◇仕事内容や電子マネーの使い方を考えることができる。【思・判・表】
二	8 ～ 13	○スチューデント・シティで体験活動を行う。	◇市民としての自覚を持ち、体験活動を行うことができる。【主体的】
三	14	○振り返りを行う。	◇学習したことをもとに、自分の将来について考えることができる。【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：5年3組教室

(1) 主眼

- 会社が営業する上で必要な費用や利益の情報を整理・分析して、ビジネスプラン(ビジネスコスト表・ローン申請書)を作成することを通して、会社の仕組みを理解することができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 本時の課題をつかむ。 (1) 固定費や変動費を確認し、会社に必要な費用を考える。  (2) 本時では会社のビジネスプランを作ることを見通す。	<b>「つかむ」段階</b> ○会社に必要な費用を考え、銀行から借りるお金を計算するという課題をつかむために、会社には様々な費用がかかることを確認する。  <b>「見通す」段階</b> ○ビジネスプランの作成方法に見通しがもてるように、前時の学習内容を想起させる。	10
	めあて 会社のビジネスプランを作成し、会社の仕組みを考えよう。		
展開 【一人学び・学び合い】	2 会社のビジネスプランを作成する。 (1) ロイロノートを活用し、ビジネスプランの作成方法を確認する。  (2) ビジネスプランの作成方法を確認しながら、会社のビジネスプランを作成する。	<b>「一人学び」の段階</b> ○ビジネスプランの作成方法が分かるように、何をすればよいのか、一つ一つの手順をロイロノートで確認できるようにしておく。  ○複雑な計算がスムーズにできるように、計算する際はタブレットの電卓を使用することを確認しておく。	10
	3 同じ会社毎のグループで、ビジネスプランを完成させる。	<b>「学び合い」の段階</b> ○よりよいビジネスプランになるように、各自が作成したプランを比較しながら検討させる。  ◇会社のビジネスプランを作成することができる。(ワークシート)	15
終末 【まとめる】	4 本時のまとめをする。 (1) 本時の学習をまとめる。	<b>「まとめる」段階</b> ○会社の仕組みを理解するために、費用と銀行の関係をまとめる。	10
	(2) 振り返りシートにリフレクションを記入する。	○単元を通した振り返りシートを活用することで、単元全体の見通しをもたせ、学びの蓄積を自覚しながら、次時の学習への意欲をもたせる。	

まとめ 会社には、人件費や固定費など様々な費用がかかる。必要な場合は銀行からお金を借りることで、その費用を支払う。

## 第6学年1組 算数科学習指導案

指導者 岩倉 麻子

### 1 単元名 立体の体積

### 2 単元観

- 本単元は、角柱や円柱の体積について、必要な部分の長さを測り、計算によって体積を求めるという考えを基に、新しい公式を導きだし、それを用いることができるようにすることが主なねらいである。

児童はこれまでに、第5学年において立方体や直方体の体積を求める方法を学習し、単位となる大きさに着目し、図形の大きさを決定付ける辺の長さを基に計算で求める力を身に付けている。

その上で、考察の対象となる空間図形と既習の図形の面積の求め方を関連付けて図形の見方を働かせ、体積の求め方を考えたり、公式を導いたりすることについて学習する。角柱や円柱の体積について計算による体積の求め方を考えるとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高める力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第7学年で学習する柱体、錐体、球の体積とつながるため、大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第5学年「体積」(啓林館)
現在	⇒本単元「立体の体積」(啓林館)
未来	⇒第7学年「立体の体積と表面積」(啓林館)

### 3 単元の目標

- 柱体の体積の求め方とその公式を理解し、公式を使って柱体の体積を求めたり、複合図形の体積を求めたりすることができる。 (知識及び技能)
- 直方体の体積の求め方を基に、角柱や円柱の体積の求め方やその公式、また、複合図形の体積の求め方を考えることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 直方体の体積の学習を生かし、柱体の体積の学習に進んで取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画 (全5時間)

次	時	○主な学習活動 (内容) 【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○未習の複合図形を提示し、既習の立体図形の体積を振り返り、単元の課題をつかむ。	◇底面積を用いて、直方体の体積の公式を見直そうとしている。 【主体的】
	2	○三角柱の体積が(底面積)×(高さ)で求められることを理解し、それをもとに角柱の体積の求め方を考える。	◇(底面積)×(高さ)で角柱の体積を求めることができる。 【知・技】
	3	○角柱の体積の求め方をもとに円柱の体積の求め方を考える。	◇(底面積)×(高さ)で円柱の体積を求めることができる。 【知・技】
	4	●柱体や本単元で提示する複合図形を柱体と捉えて、(底面積)×(高さ)で体積を求めることができる。	◇底面がどのような形でも、柱体や本単元で提示する複合図形の体積は(底面積)×(高さ)で求められることに気付く。 【思・判・表】
二	5	○基本のたしかめ、練習問題を解く。	◇既習の学習を使って問題を解くことができる。 【知・技】



5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 6年1組教室

(1) 主眼

- 立体の体積の求め方について、底面と高さに着目し、柱体と見ることができるかどうかを話し合う活動を通して、柱体であればどんな場合でも、体積は底面積と高さの積で求められることに気付くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	<p>1 学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 単元導入時で提示した複合図形を再度見て、体積を求めることができそうか考える。</p> <p>(2) どんなことに気を付ければ求められるのか確認する。</p>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○1時に見たときには解けそうになかったケーキの体積が既習の内容を使えば解けそうであることに気付かせる。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○問題を主体的に解けるようにするため、3つの図形はどれも柱体であることや、立体の体積が(底面積)×(高さ)で求められたこと、底面積の場所を確認する。</p>	7
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">めあて いろいろな形のケーキの、およその体積を求めよう。</div>			
展開【一人学び・学び合い】	<p>2 問題の解き方を考え、問題を解く。</p> <p>(1) 3つのケーキの中から1つ選び、体積を求める。</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○意欲的に問題に向かえるように、ケーキを自己選択できるようにする。</p> <p>○自分の考えがつかれるよう、既習のノートや掲示物を見たり、不安なところを隣の友だちに確認したりしても良いことを伝える。</p>	5
	<p>(2) 友だちの考えと自分の考えを比較する。</p>	<p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○友だちと交流する中で、だれも体積を求めていないケーキがあれば、グループで協力して求めるよう促す。</p>	10
	<p>(3) 3つのケーキの体積の求め方や気付いたことを全体で交流する。</p>	<p>○どのケーキも柱体であることに気付くことができるように、共通点について話し合わせるようにする。</p>	8
	<p>(4) 最後に残った一つのケーキも(底面積)×(高さ)で求められるか考える。</p>	<p>○見方を変えると、柱体になることに気付かせるため、模型を用意する。</p> <p>◇底面がどのような形でも、柱体の体積は(底面積)×(高さ)で求められることに気付く。 (ノート・ロイロノート)</p>	8
終末【まとめる】	<p>4 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 今日の学習をまとめる。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○柱体の体積は、底面がどこになるのかを考えることで体積が求められたことに気付かせるようにする。</p>	7
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">まとめ 立体の底面がどこかを考え、柱体であれば底面積×高さで体積を求めることができる。</div>			
	<p>(2) リフレクションを行い、どんなことが分かったのか、どのように考えたのかなどを書く。</p>	<p>○自分の学びを自覚し次時につなぐことができるように、振り返りの視点を提示する。</p>	

## 第6学年2組 外国語科学習指導案

指導者 平田 康夫

### 1 単元名 I am hungry. 様子や特徴

#### 2 単元観

- 本単元は、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにすることが主なねらいである。

児童はこれまでに、自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合う力を身に付けている。

その上で、ものの様子や特徴、自分の状態や気持ちを伝える語句について学習し、話すことができる力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、第7学年で学習する日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする学習とつながるため、大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第5学年「I have many yo-yos. わたしのコレクション 自己紹介」(三省堂)
現在	⇒本単元「I am hungry. 様子や特徴」(三省堂)
未来	⇒第7学年(中学校)「Making Friends 友だちを作ろう」(開隆堂)

#### 3 単元の目標

- イラストを見ながらまとめた英語を聞いて概要をとらえたり、音声を聞きイラストを頼りに英語を読んだりすることができる。(知識及び技能)
- 建物、食べ物、動物などの様子や特徴、自分の気持ちなどを伝え合うことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 自分の状態や気持ちを伝える語句や表現を使い、積極的に人に伝えようとする。(学びに向かう力、人間性等)

#### 4 単元指導計画(全6時間)

時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
1	○自分の持ち物について、大きさなどを説明する。	◇ものの様子や特徴を伝える語句や表現を理解して使っている。【思・判・表】
2	○「青い鳥」の話を聞き、わかったことを発表する。	◇「青い鳥」の話の概要をとらえている。【知・技】
3	○今の気分や気持ちを友達と伝え合う。	◇自分の状態や気持ちを伝える語句や表現を理解して使っている。【思・判・表】
4	○動物になったつもりで、自己紹介をする。	◇どんな様子や特徴のものを持っているかを伝える語句や表現に気づき、理解して使っている。【思・判・表】
5	●ものの特徴や状態、今の自分の気分や気持ちを伝える。	◇語句や表現を適切に使い、意欲的に伝えている。【主体的】
6	○身の回りにある自分の持っているものについて、詩を作る。	◇自分の持っているものについて、形容詞を適切に使って文を書いている。【思・判・表】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於:6年2組教室

(1) 主眼

- 動物の特徴、人の状態・気持ちを表す語句や表現について、既習内容を適切に使い、オンラインティーチャーと意欲的に会話しようとしている。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	<p>1 オンライン英会話に向けて準備をする。</p> <p>(1) 語句の練習を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                     形容詞 (short, long, small, big など)                      気分 (happy, sad, sleepy, hungry など)                 </div> <p>(2) 学習の見通しをもつ。</p>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○オンラインティーチャーとの会話で使えるよう、今回使う主な語句を練習させる。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○どのような流れで学習するのかを児童がつかめるよう、Activity について簡単に説明する。</p>	10
展開【二人学び】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">                     めあて 動物の特徴や人の気持ちを先生に伝えよう。                 </div> <p>2 【オンライン英会話】で外国人講師と会話をする。</p> <p><b>Activity 1</b></p> <p>○単語の言い方を練習し、スライドの動物について、特徴を伝える。</p> <p><b>Activity 2-1</b></p> <p>○スライドの人物になったつもりで、気持ちを伝える。</p> <p><b>Activity 2-2</b></p> <p>○講師のジェスチャーを見て、どんな気分かを当てたり自分の気持ちを伝えたりする。</p> <p><b>Activity 2-3</b></p> <p>○スライドの人物になったつもりで講師の質問に答える。</p> <p><b>Activity 3</b></p> <p>○講師の後についてレポート練習をし、英文を読む</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○児童がオンラインティーチャーとスムーズに会話することができるよう、回線や機器の状況、児童の様子を見ながら、必要に応じてサポートする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;">                     ◇オンラインティーチャーと意欲的に会話している。(行動観察)                 </div>	25
終末【まとめる】	<p>3 本時の学習を振り返り、フレーズの復習を行う。</p> <p>(1) リフレクションを行い、振り返りシートに記入する。</p> <p>(2) どんなことを話したか発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;">                     まとめ The ~is ~. や I am ~. I want~.を使うと、動物の特徴や人の気持ちを伝えることができる。                 </div>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○本時学習に出てきた表現を振り返ることができるように、オンラインティーチャーとの会話で使ったフレーズを確認する。</p>	10

## 第6学年3組 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 後藤 鈴奈

### 1 単元名 生活に役立つ Pepper のプログラムを作ろう (ロボブロックス)

#### 2 単元観

○ 本単元は、私たちの生活はロボットと関わり合っていることに気付き、社会や自らの将来に関連づけて Pepper を生活に役立つようにプログラミングすることが主なねらいである。

児童はこれまでに、第5学年でロボブロックスを使って指示されたブロックを選び、つなぎ合わせて簡単なプログラムを作り、実行する仕方を身に付けている。

その上で、自分が意図した動きになるように様々なブロックの使い方について学習し、目的に合ったプログラムをする力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は第7学年技術科における micro:bit と Pepper を用いたプログラミングでの課題解決の学習につながるため、大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第5学年「Pepper を動かそう」(ロボブロックス)
現在	⇒本単元「生活に役立つ Pepper のプログラムを作ろう」(ロボブロックス)
未来	⇒第7学年技術科「双方向性のあるコンテンツによる問題解決」(開隆堂)

#### 3 単元の目標

- 身近な生活でロボットが活用されていることを知り、様々なブロックを使って Pepper をプログラムし、動かすことができる。 (知識及び技能)
- 目的や意図したことに対しての手順を考察し、問題がある場合は理由や改善方法を考え、さらに良い方法を追求することができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 情報技術のよさや価値を社会や自らの将来に関連づけて考え、進んで学習に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

#### 4 単元指導計画 (全8時間)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○タッチセンサや画面タッチセンサを使って、Pepper を動かしたり、会話したりする。	◇Pepper を動かそうとしたり、会話しようとしていたりしている。【主体的】
二	2	○変数を使ってプログラムを作る。	◇変数を使ってプログラムを作ることができる。【知・技】
	3	○Pepper にできる動きからイメージして、日常生活の中で実際に Pepper を置いてみたい場所や目的を決める。	◇Pepper を実際に置いてみたい場所や目的を決めることができる。【主体的】
三	4	●目的に合った Pepper を作るために必要なプログラムを考える。	◇目的に合ったプログラムを考え、見直すことができる。【思・判・表】
	5 6	○ロボブロックスを使って、作りたい Pepper のプログラムを作る。	◇作りたい Pepper になるようにプログラムすることができる。【知・技】
四	7 8	○Pepper にプログラムを送信し、実際に動かしながら発表をしたり、友達のプログラムを見て、どのようにプログラムを作っているのか考えたりする。	◇Pepper にプログラムを送信し、動かすことができる。【知・技】 ◇友達の発表を見て、どのようなプログラムなのか考えることができる。【思・判・表】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 6年3組教室

(1) 主眼

- 目的に合った Pepper のプログラムを作るために、必要なブロック・センサの仕組みやはたらきを選択し、試行錯誤しながら意図した動きに近づけることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	<p>1 学習内容をつかむ。</p> <p>(1) 前時までの学習を想起し、本時学習課題をつかむ。</p> <p>(2) ブロックに使い方、目的を確認する。</p>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○チームで考えた、Pepper を活躍させる目的を実現させるためにプログラミングしていく本時学習課題を確認する。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○プログラム作成のために必要な各ブロックの仕組みやはたらきについて再度確認することで、課題解決の見通しをもたせる。</p>	5
展開 【一人学び・学び合い】	めあて 目的に合った Pepper になるようにプログラミングしよう。		
	<p>2 考えを出し合い、プログラムを作る。</p> <p>(1) どんな動きをさせ、言葉を言わせたいのか、そのためには、どのようにブロックを組み立てればよいのかを考える。</p> <p>(2) 自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりしてプログラムする。</p> <p>(3) 作ったプログラムを発表し、交流する。</p> <p>(4) 全体交流での学びを生かし、自分たちのプログラムを改善する。</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○スムーズに考えられるように、既習の各ブロックの仕組みやはたらきについてまとめたものを掲示したり、資料として配付したりする。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○一人学びでの考えを持ち寄り、チームで協力しながらプログラミングする。</p> <p>○互いのプログラムを比較し、動きと関連づけて考えながら、より目的に合う動きになるよう話し合わせる。</p> <p>○これまで作成してきたプログラムについて、Pepper の動きだけでなく、目的やブロックの選択、組み合わせについて意図や工夫を紹介させる。</p> <p>○困っていることについて発表させ、解決策を交流させる。</p>	5
	◇目的に合ったプログラムを考え、ロボブロックを動かしながら改善していくことができる。(作成したプログラム)		8
			2
終末 【まとめる】	<p>3 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 今日の学習をまとめる。</p> <p style="border: 2px solid black; text-align: center;">まとめ 目的に合った Pepper に近づけるためには、必要なブロックやセンサを選択し、組み合わせていく。</p> <p>(2) リフレクションを行う。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○必要なブロックやセンサを選択することの大切さに気付かせるために、目的に戻って考えるようにする。</p> <p>○「できるようになったこと」「次回見直したいプログラム」「他のグループの真似したいところ」に視点を絞ってリフレクションを行うことで、次時につなげる。</p>	5

## なかよし学級 1 組 自立活動学習指導案

指導者 田中 ひとみ

### 1 単元名 たたみかた名人になろう

### 2 単元観

- 1 健康の保持（1）生活リズムや生活習慣の形成に関すること。  
 本単元は、衣服調節など健康な生活環境の形成を図ることをねらいとしている。生活リズムや生活習慣の形成は、日常生活の中で指導することによって養われる場合が多いので、この学習では洋服のたたみ方を覚え、身辺整理ができるようになることを目指している。  
 児童はこれまでに、ハンカチやタオルをたたみ、ランドセルやポケットにしまう学習を通して、少しずつであるが身辺整理について意識することができてきた。  
 その上で、体操服のたたみ方を知り、さらに体操服入れに収納する方法について学習し、きれいにたたんで収納することのよさを知り、整理整頓の力を身に付けることは大変意義がある。  
 また、本単元で学習した内容は、3学期の自立活動「使いやすい片づけ方を考えよう」で、学校生活だけでなく家庭生活においても、身の回りの物を使いやすく片づける力を身に付けていく上で大変重要である。
- 学習内容の系統性

過去	「引き出しやロッカーをきれいにしよう」 (1 学期)
現在	⇒本単元「たたみかた名人になろう」
未来	⇒「使いやすい片づけ方を考えよう」 (3 学期)

### 3 単元の目標

- 体操服のたたみ方を知り、たたむ練習をすることができる。 (知識及び技能)
- 衣服をたたみ、収納することのよさを考えることができる。  
 (思考力、判断力、表現力等)
- これからの生活に生かしたり、改善したりしようとする。  
 (学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画 (全 4 時間)

次	時	○主な学習活動 (内容) 【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○ハンカチとタオルのたたみ方としまい方を知る。	◇たたみ方を理解し、自分でたたみ、しまうことができる。 【知・技】
	2	●体操服のたたみ方を知る。	◇たたみ方を理解し、たたむ練習に取り組むことができる。 【知・技】
	3	○給食時に使うエプロンのたたみ方を知り、洗濯物の中から取り組みたいものを考える。	◇たたみ方を工夫し、家で取り組みたいものを決めることができる。 【思・判・表】
	4	○たたみ方名人になるためのがんばりカードに、必要なことを記入する。	◇たたみ方名人カードに、洗濯物の中から何をたたみ、どこにしまうのかを決め、意欲的に書くことができる。 【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：なかよし1組教室

(1) 主眼

- 体操服のたたみ方と収納の仕方の練習を通して、整理整頓の仕方を身に付けることができる。
- 個々の目標

学年・児童	本時の目標
1年A児 2年C児	袖を折って下から半分に折り、更に半分に折る基本的なたたみ方ができ、重ねて袋に入れることができる。
1年B児 2年D児	広げておき半分に折って、更に半分に折り1枚ずつ袋に入れることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 学習課題をつかむ。 (1) 体操服入れの中の写真を見て、思ったことや困ることについて考える。 (2) なぜ、たたんで入れた方がよいのか知る。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) <b>「つかむ」段階</b> ○体操服入れから取り出してすぐに着ることができない状況だと気付くように日頃の体操服袋の写真を見せる。 <b>「見通す」段階</b> ○きれいにたたんであると、すぐに着られることやすぐに取り出せることに気付かせるため、きれいな入れ方の写真を準備する。	10
	めあて たたみかためいじんになろう。		
展開 【一人学び・学び合い】	2 体操服のきれいなたたみ方について知る。 (1) 自分で考えた方法でたたむ。 (2) 友だちのたたみ方のいいところを見つけ合う。  1年B児・2年D児への支援⇒友だちのたたみ方を見て、一つでもいいところを発言できるように声掛けをする。  (3) たたみ方のポイントについて知る。 (4) ポイントカードを使って、体操服と体操ズボンをたたむ。 (5) 体操服入れに収納する。  1年A児・2年C児への支援⇒体操服入れに入れる時、2枚重ねて丁寧に行うことができるように声掛けをする。	<b>「一人学び」の段階</b> ○自分の力で体操服をたたみ、感想をもたせる。  <b>「学び合い」の段階</b> ○たたんでいるところを見せ、いいところを評価する。  ○児童から出されたたたみ方のポイントに付け加えて、「たたみ方ポイントカード」を提示する。	8  20
		◇体操服のたたみ方を知り、体操服入れに丁寧に行うことができる。(行動)	
終末 【まとめる】	3 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。 (1) 本時の学習を振り返る。  まとめ はしとはしをあわせて、はんぶんにおっていくときれいにたたむことができる。  (2) 次時の学習を知る。	<b>「まとめる」段階</b> ○自分ができるようになったこと、がんばったことに気づけるように本時でたたんだ様子を写真等で示す。  ○体操服のたたみ方を生かして、次はエブロンなどをたたむことを知らせる。	7

## なかよし学級 2 組 生活単元学習指導案

指導者 川村 史穂里

### 1 単元名 秋の植物をみつけよう

### 2 単元観

- 本単元は、身近な自然と自分との関わりについて関心を持ち、木の葉や木の実の色や形など様々な植物の季節ごとの見た目や感触の変化などを実感させることが主なねらいである。

児童はこれまでに、生活単元「夏をかんじよう」において、ナスやキュウリ、トマトなどの夏野菜を育てる学習をしている。その中で夏の植物や生物の名前を調べたり、実際に触れたりする学習を通して、春の植物と夏の植物の違いについて見分ける力を身に付けている。

その上で、秋の植物の学習をすることで四季の変化とともに変容する自然の姿に目を向け、身近な自然の植物に興味を持ち、自らの生活や様々な体験活動の中で植物の変化の過程に触れることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、3 学期の生活単元「冬の遊びをしよう」で気温や湿度によって成長過程が異なる植物の生態を知る学習につながるため、大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	「夏をかんじよう」
現在	⇒本単元「秋の植物をみつけよう」
未来	⇒「冬の遊びをしよう」

### 3 単元の目標

- 活動や体験を通して、身近な自然の変化や特徴に気付くことができる。  
(知識及び技能)
- 身近な自然と自分との関わりに気付き、感じたことを表現することができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 身近な自然の植物に関心を持ち、意欲的に活動しようとする。  
(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画 (全 3 時間)

次	時	○主な学習活動 (内容) 【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○校内で秋の植物を探し、葉や木の実を集め、それらの季節ごとの変化の様子を知る。	◇季節の変化に気付くことができる。 【知・技】
二	2	●デザインを考え、必要な材料を選び、リースをつくる。	◇自ら考え、制作の活動に取り組んでいる。 【思・判・表】
	3	○つくったものを見て、工夫したところや相手の作品の良いところを発表し合う。	◇友だちの作品の良いところを見つけ意欲的に発表している。 【主体的】



5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：なかよし2組教室

(1) 主眼

- 集めた秋の葉や木の実などを使ってリースを制作する活動を通して、実物に触れて植物の変化や特徴に気付いたり、自然を身近に感じながら制作活動を楽しんだりすることができる。
- 個々の目標

学年・児童	本時の目標
3年・A児、B児 4年・C児	集めた葉や木の実など、身近な自然や植物の季節ごとの変化に気づき、変化の内容や自らが感じたことを表現し、意欲的に制作活動に取り組むことができる。
4年・D児	集めた葉や木の実などに興味を持ち、自ら触れ、その感触を楽しみながら制作活動に取り組むことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時		
導入 【つかむ・見通す】	1 前時を振り返り、本時の学習を知る。	<p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○前時の学習を想起するために実物を見せる。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○完成の見通しをもたせるために、教師が制作した見本を見せる。</p>	10		
	めあて あきのはっぱやきのみをつかってじぶんだけのリースをつくろう。				
展開 【一人学び・学び合い】	2 リースを作る。 (1) 材料を選ぶ。  (2) 材料を置きながら、自分なりのデザインを考える。	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○自由に材料が選べるように、種類ごとに箱に入れておく。</p> <p>○制作時に確認できるようデザインをタブレットで写真を撮らせておく。</p> <p>○児童それぞれに飾りの付け方を提示し、それぞれに支援する。</p>	10  15		
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">A児への支援⇒接着面を説明しながら、自分の力で接着剤を使って飾りを付けさせる。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">B・C児への支援⇒動きのある材料を準備したり、材料にひもを通し、結ばせたりしながら飾りを付けさせる。</td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">D児への支援⇒教員が材料に接着剤を付け、飾りを付けさせる。</td> </tr> </table>		A児への支援⇒接着面を説明しながら、自分の力で接着剤を使って飾りを付けさせる。	B・C児への支援⇒動きのある材料を準備したり、材料にひもを通し、結ばせたりしながら飾りを付けさせる。	D児への支援⇒教員が材料に接着剤を付け、飾りを付けさせる。
A児への支援⇒接着面を説明しながら、自分の力で接着剤を使って飾りを付けさせる。	B・C児への支援⇒動きのある材料を準備したり、材料にひもを通し、結ばせたりしながら飾りを付けさせる。	D児への支援⇒教員が材料に接着剤を付け、飾りを付けさせる。			
	3 友だちのよいところを見つけ、自分の作品に生かす。	<p>◇秋の葉や木の実の特徴を生かして自分なりのデザインを考え、リース作りに取り組んでいる。 (デザインの写真・行動観察・作品)</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○友だちの作品のよさを取り入れることができるように、工夫している点を評価し、みんなに紹介する。</p>			
終末 【まとめる】	4 まとめをする。 (1) 本時の学習を振り返る。	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○達成感を味わわせるために、頑張ったことやできたことを評価する。</p>	10		
	まとめ あきのはっぱやきのみをつかうと、すてきなリースをつくることのできた。				
	(2) 次時の学習について知る。	○作品を友だちに紹介することを知らせ、次時への意欲をもたせる。			

## なかよし学級3組 生活単元学習指導案

指導者 船越 明華

### 1 単元名 遠足のおやつを買おう

### 2 単元観

○ 本単元は、児童が売る側と買う側に役割分担をし、欲しいおやつの値段から大体の金額を予想して準備したり、支払いをしたりすることを通して、金銭の取り扱い方に関心をもたせ、必要な技能を一人ひとりの発達段階に応じて身につけさせていくことが主なねらいである。

児童はこれまでに、他者の支援を受けながら買い物をする体験をし、決まったものを決まった金額で購入する力を身に付けている。

その上で、複数の金種を数えて代金に近い金額を構成することで、複数の品物の買い物を成功させることを学習し、今後の生活場面に生かしていくことは、児童の自立を目指していくうえでも大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、秋の遠足のおやつを予算内で購入する生活場面、及び今後児童本人が、衣食住を確保するためのあらゆる生活場面とつながるため、購入する際に金額の見当をつけ、可能な範囲で買い物ができるようになることは、大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第6学年「修学旅行で買うお土産の計画をたてよう」(支援あり)
現在	⇒本単元「遠足のおやつを買おう」(自分で)
未来	⇒第8学年「修学旅行のお土産を買おう」(助言を受けながら、自分で)

### 3 単元の目標

- 品物を複数個買った場合の代金を計算することができる。(知識及び技能)
- 品物を複数個買った場合の代金を見当づけることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 設定した金額に近い代金になるように買い物しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画(全3時)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価基準
一	1	○「何円玉が何枚でしょうゲーム」に取り組む。	◇複数の硬貨を選び、正しい金額にすることができる。 【知・技】
	2	○「たりるかなゲーム」「おつりはいくらゲーム」に取り組む。	◇提示された品物の代金に足りるよう金額を構成できる。 【思・判・表】
	3	●「お店屋さんごっこ」に取り組み、買いたいおやつを購入する練習をする。	◇適切に商品を選び、買い物をすることができる。 【思・判・表】
	※	○近くのスーパーマーケットで、遠足のおやつを購入する。	◇代金の見当づけを行って、品物を購入しようとしている。 【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：なかよし3組教室

(1) 主眼

- 金銭の取り扱いについて、「お店屋さんごっこ」をしながら買い物の疑似体験をすることを通して、設定した金額に近い代金になるように品物を選び、購入することができる。
- 個々の目標

学年・児童	本時の目標
6年・A児	50円、100円、150円の商品から300円に近い、もしくはぴったりになるように店員役に尋ねながら品物を選び、買い物をすることができるようになる。
6年・B児	10～150円の商品から300円に近い、もしくはぴったりになるように品物を選び、買い物をすることができるようになる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価基準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 本時の学習課題をつかむ。 (1)秋の遠足の計画を知り、食べたいおやつを考える。  (2)食べたいおやつを購入する方法について見通す。	○指導上の留意点 ◇評価基準(方法) <b>「つかむ」段階</b> ○学習課題への意欲をもたせるために、秋の遠足の計画を提示し、どんなおやつを持っていきたいかを考えさせる。 <b>「見通す」段階</b> ○買い物をするには、代金の見当づけが必要であることを考えさせるために、前時の「たりるかなゲーム」をする。	10
	めあて えんそくのおやつをじょうずにかおう。		
展開 【一人学び・学び合い】	2 買いたいおやつを選ぶ。 (1)買い物リストに買いたいものと代金の合計を記入する。  A児への支援⇒50円、100円、150円の商品を準備し、代金の見当をつけさせる。	<b>「一人学び」の段階</b> ○代金を見当づけるために、品物と金額が書かれたリストを渡す。  B児への支援⇒10円～150円の商品を準備し、代金の見当をつけさせる。	15
	3 お客の役と店員の役に分かれて「お店屋さんごっこ」をする。 (1)お客役はリストをもとに買い物をし、店員役はレジスターを使って会計をする。  (2)おつりを比べ合い、どちらの買い方が設定金額に近いかを知る。	◇設定した金額に近い代金になるように品物を選んでいる。(リスト)  <b>「学び合い」の段階</b> ○自立心を高めるために、お客役には声掛けをせず、店員役を補助する。  B児への支援⇒わからないことは店員役に聞くよう声掛けをする。  ○おつりの量感を捉えさせるために、硬貨のイラストを提示する。	15
終末 【まとめる】	4 本時の振り返りをする。 (1)一人ずつ感想を発表する。	<b>「まとめる」段階</b> ○達成感を感じさせるために、一人ひとりができたことを褒める。  ◇設定金額に近い代金になるよう品物を選ぶことに意義を感じている。(発言)	5
	(2)今後の予定を聞く。	○学びを生かし、本物のお店で遠足のおやつを買うことを伝える。	

## なかよし学級 4 組 自立活動学習指導案

指導者 松尾 歩

### 1 単元名 いい歯にしよう

### 2 単元観

- 1 健康の保持(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。

本単元は、1年生になって1人で歯を磨きはじめた児童や歯磨きには慣れている6年生児童に、食生活の視点からも歯の健康状態の維持・改善への意識を持たせることをねらいとしている。

児童はこれまでに、乳歯が抜けると永久歯に生え変わることや永久歯が生え変わらないことを知り、歯の大切さを感じるとともに、よい歯の磨き方を学習し、日々の歯磨きで気を付けたいと思えているようである。

その上で、11月8日の「いい歯の日」に向けて、いい歯のイメージを持たせ、いい歯にするための方法を考えさせたい。その際、食材を歯によい食べ物と虫歯菌を増やす食べ物に分ける活動を通して自分の食生活を振り返る学習をしたり、よい歯の磨き方の確認をしたりすることは、歯の健康作りに必要な生活習慣を身に付けるという点で大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、2年生の学級活動「歯を大切にしよう」で虫歯がひどくなると歯を失う場合もあることから歯の大切さを実感する学習とつながり、中学部の保健体育「健康な生活と病気の予防」で健康な生活を送る上で歯の健康を保つことは病気の予防の一環としての学習にもつながり、いい歯を目指すことは大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第1学年 学級活動「歯のよいみがき方」 第6学年 学級活動「歯の健康を考えよう」
現在	⇒本単元 自立活動「いい歯にしよう」
未来	⇒第2学年 学級活動「歯を大切にしよう」 中学部 保健体育「健康な生活と病気の予防」

### 3 単元の目標

- いろいろな歯の写真の中から、いい歯の写真を選んだり自分なりの言葉で答えたりすることができる。 (知識及び技能)
- 食材を歯によい食べ物と虫歯菌を増やす食べ物とに分ける活動をすることで、普段の食事を見直すことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- いい歯にするためのいろいろな方法の中から自分に合った方法を選び、実践しようとする。 (学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画 (全3時間)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○いい歯とはどんな歯なのか考える。	◇いい歯の写真を選び、自分の言葉で答えることができる。 【知・技】
二	2	●いい歯にするための方法を考える。	◇食べる物や汚れを落とす視点から、いい歯にする方法を考えることができる。 【思・判・表】
	3	○いい歯にするための方法を選ぶ。	◇自分に合ったいい歯にするための方法を選び、必要なことを考えて実践することができる。 【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：なかよし4組教室

(1) 主眼

- 歯によい食べ物と虫歯菌を増やす食べ物を分ける活動や歯磨きの仕方を再確認する活動を通して、食べる物や汚れを落とす視点から、いい歯にする方法を考えることができる。
- 個々の目標

学年・児童	本時の目標
1年・A児	いい歯にするための方法を食べ物や汚れを落とす視点から1つずつ考えることができる。
6年・B児	いい歯にするための方法を食べ物や汚れを落とす視点から複数考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 前時の振り返りをして本時の見通しをもつ。 (1) いい歯の写真を選び、言葉で表現する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">めあて いいはにするためのほうほうをかながえよう。</div> (2) 今日のねらいをつかむ。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) <b>「つかむ」段階</b> ○A児にいい歯を想起させるために、いろいろな歯の写真を見せる。 <b>「見通す」段階</b> ○どうすればよかったのかを想像するため、いい歯でない写真から考える。	5
	2 食材に目を向けて、歯によい食べ物と虫歯菌を増やす食べ物に分ける。 (1) 食材に分ける。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉茎菜類 (白菜・玉葱)</li> <li>・根菜類 (人参・蓮根)</li> <li>・果菜類 (胡瓜・南瓜)</li> <li>・乳製品 (牛乳・チーズ)</li> <li>・豆類 (大豆・小豆)</li> <li>・きのこ類 (椎茸・榎茸)</li> <li>・菓子類 (チョコ・ジュース)</li> </ul> </div> (2) 発表する。 ・甘いのは虫歯になりやすい。 ・よく噛むと歯が丈夫になると聞いたよ。	<b>「一人学び」の段階</b> ○食材は実物を用意し、見たり触れたり匂ったりすることで、仕分けの手立てにする。 ○互いに仕分けた結果を見せながら、発表させる。 ○歯に悪いと思った理由を聞くことで、分別の視点を明確にする。 ○違う点があれば、どちらに入れるか二人で話し合わせる。	15
展開 【一人学び・学び合い】	3 いい歯にするための方法を考える。 (1) 食べる物に関して方法を考える。  (2) 汚れを落とす方法を考える。	<b>「学び合い」の段階</b> ○食生活を振り返るため、二人によく食べている物を尋ね、このままでいいのかゆきぶりをかける。 ○B児に食材カードの裏に明記されている良さを読んでもらい、A児に挑戦する意欲をわかせる。 ○虫歯菌を増やす食べ物を食べる時には、汚れを落とす必要があることをA児に気付かせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; display: inline-block;">◇食べる物や汚れを落とす視点から、いい歯にする方法を考えることができる。(発言)</div>	15
	4 学習のまとめをする。 (1) 本時を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">まとめ すききらいをせずにたべ、うがいやはみがきをすればいいはにすることができる。</div> (2) 歯磨きの仕方を再確認する。	<b>「まとめる」段階</b> ○学習したことをもとに、いい歯にする方法を確かめ、まとめにする。 <b>「一人学び」の段階</b> ○歯磨きをしながら、ポイントを確認することで自分の生活に生かせるようにする	10
終末 【まとめる】			

なかよし学級5組 自立活動学習指導案

指導者 淵上 スミ子

1 単元名 なかよくゲームをしよう

2 単元観

- 3人間関係の形成 (2)他者の意図や感情の理解に関すること。  
(3)自己の理解と行動の調整に関すること。

6コミュニケーション(2)言語の受容と表出に関すること。

本単元は、「話す」「聞く」「見る」「協力」を重点的に行い、言葉でわかりやすく説明したり、相手の立場になって考えたりする経験を積むことを目指している。また、勝ち負けにこだわらないようになるために、小さな勝負をたくさん積み重ねることで負けても次があることを体験させ、失敗を受け止めることができるようにしている。さらに、ルールを守るとゲームが楽しくなる体験をすることが主なねらいである。

児童はこれまでに、「聞く力を伸ばすドリル」「いろいろビンゴ」「障害物競争」などを学習する中で、ソーシャルスキルトレーニングを行い、自分が落ち着く方法や気持ちの切り替え方を少しずつ身に付けてきている。

その上で、「はてなボックス」「変身ゲーム」「すごろくゲーム」等のエクササイズについて学習し、相手に分かるように言葉で説明したり、相手に合わせたりする力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、交流学級での活動場面で困り感が減ることが期待できる点からも、社会生活や対人関係を営んでいくために大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	「いかりのコントロール」
現在	⇒本単元「なかよくゲームをしよう」
未来	⇒3学期「こんなときどうする」

3 単元の目標

- 人とうまくかかわる方法がわかり、友達にわかりやすく伝えようとする事ができる。 (知識及び技能)
- ゲームの趣旨に沿った活動をしようとする。 (思考力、判断力、表現力等)
- 進んで問題に答えたり友達を誘ったりして意欲的にゲームに取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

4 単元指導計画 (全5時間)

次	時	○主な学習活動 (内容) 【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○「人間コンベア」スピードやタイミングを相手に合わせる。	◇友だちに合わせて活動することができる。 【主体的】
	2	○「エキスパー」テーマにあわせた5つの言葉を考える。	◇相手の立場になって考えることができる。 【思・判・表】
二	3	○「はてなボックス」相手に伝わるように言葉で話す。	◇相手がわかるように言葉で説明することができる。 【知・技】
	4	●「すごろくゲーム」をしよう。	◇ルールを守ってゲームに参加したり相手に優しい言葉や励ましの言葉が言えたりできる。 【思・判・表】
	5	○「変身ゲーム」相手をよく見たり、困った時に相談したりする。	◇変わったところを見つけることができる。 【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：なかよし5教室

(1) 主眼

- 勝負へのこだわりの場面では、自分が落ち着くリラックス方法を選ぶ活動を通して、ルールを守ることができる。
- 相手の立場を考える場面では、黒板に提示してある「ふわふわ言葉」を参考にし、友だちのことを考えて言葉をかけることができる。

学年・児童	本時の目標
2年・A児	自分の気持ちをコントロールし、ルールを守って仲良くゲームに参加できる。
2年・B児	相手の気持ちを考えながら、自分の考えを伝え、やさしい言葉をかけることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	1 前時を振り返り、本時の学習課題について知る。 (1) 前時のゲームについて振り返る。 (2) 本時のねらいを知る。	<p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○前時のゲームについて振り返り、仲良くできなかった場面があったことを確認する。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○仲良くゲームをするためには、各自どんな力が必要か考えさせる。</p>	3
展開【一人学び・学び合い】	<p>めあて ルールをまもって、友だちとなかよくゲームをしよう。</p> <p>2 仲良くゲームをするための約束を考える。 (1) 自分の約束を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふわふわ言葉を使う。</li> <li>・ルールを守る。</li> <li>・負けを受け入れる。</li> <li>・イライラした時に、気持ちを切りかえる。</li> </ul> <p>3 ゲームをする。 (1) 3ヒントゲームをする。 (2) すごろくゲームをする。</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○既習のゲームを想起させ、個々に必要な約束を選ばせる。</p> <p>○「ルール」を守れない時は、その都度声かけをし、リラックス方法を選び、気持ちを切り替えて臨ませる。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○ルールが守れている場面を称賛する。</p> <p>○A児へは、気持ちがイライラしてきたら、リラックス方法を選ばせ、気持ちのコントロールができるようにする。</p> <p>○B児へは、友だちに適切な言葉かけができるように、ふわふわ言葉の提示物を参考にさせる。</p> <p>◇ルールを守って取り組めた。(行動) 友だちのことを考えて言葉をかけることができた。(発言)</p>	7
	<p>4 本時のまとめをする。 (1) めあてのふりかえりをする。 (2) 感想の発表をする。</p> <p>まとめ ルールをまもったり、「ふわふわことば」をつかったりするとなかよくゲームができた。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○個々の約束を振り返り、次に頑張ることが実感できるよう声かけをする。</p> <p>○ふわふわ言葉を言われた時の気持ちを発表させる。</p>	30
終末【まとめる】			5

## 第7学年1組 技術・家庭科（技術分野）学習指導案

指導者 切通 智行

### 1 題材名 プログラムによる計測・制御（マイコンボード micro:bit と Pepper を用いて）

### 2 題材観

- 本単元は、「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決」を通して、生活や社会の中からプログラムに関わる問題を見いだして課題を設定する力、プログラミング的思考等を発揮して解決策を構想する力の育成や「計測・制御システム」を理解させることを主なねらいとしている。

生徒はこれまでに、小学校の総合的な学習の時間において、ボックス型プログラミングを学んでいる。また、中学校の技術科の授業においては、コンピュータの仕組み、デジタル化、情報通信ネットワークの仕組み、情報セキュリティ技術、インターネットの特性と情報モラルについて既習している。あわせて文字入力、インターネット活用などの基本的な情報リテラシーも備えている。

その上で、本題材において、センサ付きマイコンボード micro:bit と人型ロボット Pepper を用いたプログラミングでの課題解決を学ぶことは、来る超スマート化社会“Society 5.0”を生き抜く資質・能力を身につけることが求められる生徒たちにとって大変意義深いと考える。

また、本題材で学習した内容は、高等学校で学習するプログラム言語を活用したより深い学びにおいて、将来の社会に必要な情報リテラシー、プログラミング的思考力の育成、さらには21世紀型能力であるイノベーション能力、コラボレーション能力、コミュニケーション能力の育成を図る学びへとつながり大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第6学年 総合的な学習の時間 「ボックス型プログラミング」
現在	⇒第7学年 技術科 「双方向性のあるコンテンツによる問題解決」（開隆堂）
未来	⇒高等学校 情報科 「HTML、CSS言語等を使ったプログラミング」

### 3 題材の目標

- 考案・制作したプログラミングの仕組みや効果を説明し、修正・改善することができる。（思・判・表）
- 課題解決型プログラミングを通して、プログラミング的思考を身に付けることができる。（知・技）
- 社会の問題の解決に、IoT や人型ロボットを活用したプログラミングを考えることで、プログラミングやIoT がもっている社会や生活への有効性を理解している。（学びに向かう力、人間性等）

### 4 題材指導計画（全8時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○身の回りにあるプログラムを利用した計測・制御を行っているものについて考え、情報の流れについて理解する。	◇プログラムに関心・意欲を持ち、作成・活用しようとしている。【主体的】
	2	○プログラムとは、「あらかじめ決められた手順を命令の形式で書かれたもの」であることを知る。また、フローチャートの使われている図形の意味や基本的な構造を知る。	◇計測・制御の仕組みについて理解し、身に付けている。【知・技】
	3 4	○人型ロボット pepeer の起動や制御ソフト RoboBlocks との接続の方法を復習し、簡単なプログラムを作る。	◇目的や条件に応じたプログラムを作成できる。【知・技】
二	5	○身近な社会の課題を考える。 ○テーマ「社会の問題を解決する人型ロボット：センサを活用して」に沿ったプログラムを作るための準備を行う。	◇目的や条件に応じたプログラムを作成できる。【知・技】
	6	●テーマをもとに課題を解決するプログラミングを制作し、micro:bit と Pepper をつないだプログラムをつくる。	◇目的や条件に応じて処理の手順を工夫・改良して表現している。【思・判・表】
	7	○制作したプログラムの発表を行う。 ○プログラムの質疑・意見交流を行う。	◇制作したプログラムについて発表し、修正、改善ができる。【思・判・表】
	8	○意見や気付いた点を用いてプログラムを修正し発表する。 ○プログラムやIoT の有効性を確認し、まとめる。	◇プログラミングやIoT の社会や生活への有効性を理解している。【主体的】



5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於:3階パソコン室

(1) 主眼

○プログラミングについて、課題解決するために試行錯誤や交流活動を通して、身近な生活問題を改善解決できる micro:bit と Pepper をつないだ IoT プログラムを制作できる。

(2) 展開

段階	学習活動・学習内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	<p>1 本時の課題を知り、めあてを確認する。</p> <p>(1)課題について知る。</p> <p>(2) 解決方法や結果について見通す。</p>	<p>「つかむ」段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Society5.0やIoTについてイメージをもたせるために、動画を見せる。</li> </ul> <p>「見通す」段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を振り返り、ボックス型プログラムやプログラム完成までの手順を確認する。</li> </ul>	10
展開【一人学び・学び合い】	めあて: micro:bit と Pepper をつないだ IoT プログラムをつくってみよう		20
	<p>2 プログラムを工夫してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題の学習プリントの記述をもとにRoboBlocksでプログラミングを行う。</li> <li>・プログラムをためす。</li> </ul>	<p>「一人学び」の段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センサの変数値によって Pepper が違った動きをするプログラムをつくらせるために、micro:bit のセンサ(内蔵:光センサ、温度センサ、外付け:距離センサ)のどれかを使わせる。</li> <li>・micro:bit 側のセンサプログラム及びブルーームは、事前に教師が作成し pepper の動作を行わせる。</li> <li>・RoboBlocks センサ対応基礎プログラム(前時作成分)を活用させる。</li> </ul> <p>※PC 教室外のセンサ値は予想値とする。</p> <p>◇IoT を活用し課題解決を意識した作品となっているか。【思・判・表】(発言内容、プリント記述内容、プログラム内容(保存分))</p>	10
終末【まとめる】	<p>3 1人ずつ3名がプログラムを発表しあい、互いの改善等気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムの仕組みや効果、工夫したところを説明する。</li> <li>・各3分以内で発表する。</li> <li>・発表者の良かった点、改善点を記録する。</li> </ul>	<p>「学び合い」の段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時にお互いの発表に対する質疑応答を行わせるためメモをとらせる。</li> <li>・電子黒板、画面送信を活用し発表させる。</li> <li>・プログラムの説明後、動作を確認するため、Pepper のそばで発表を行わせる。</li> </ul>	10
	<p>4 本時のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリントに本時の感想を記入する。</li> <li>・次回の発表と改善作業の見通しをもつ。</li> </ul>	<p>「まとめる」段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作したプログラムを生徒フォルダ内に保存させる。</li> <li>・友人の発表や自らのプログラミングをもとに、IoT の将来の活用方法や有効性についてもまとめで考えさせる。</li> </ul>	10
まとめ:RoboBlocks でプログラムを考案し、試行錯誤してプログラミングすることで、micro:bit と Pepper をつないだ IoT プログラムをつくること			

## 第7学年2組 英語科学習指導案

指導者 高宮 和美

### 1 題材名 Our Project 2 この人を知っていますか

#### 2 題材観

- 本題材では、「他者紹介」を扱う。自分の身の回りの人物を紹介する「書いて伝える」活動を通して、その人物の情報や自分の考え、気持ちなどをまとめ、まとまりのある文章を書き、スピーチすることができるようになることがねらいである。

生徒は第5学年で、第三者について he や she を用いてその人物を紹介し、その人物について尋ねたり答えたりする表現を学習した。また、第7学年の1学期に be 動詞、一般動詞、複数形、助動詞 can などを学習し、自己紹介の原稿作りとスピーチ発表を行った。そして2学期に入り、指示代名詞や三人称単数を学習し、身の回りの人物について紹介するための表現や文法を身に付けている。

その上で、自分が紹介する人物についての原稿を作成し、わかりやすいスピーチを作り、それを表情豊かに発表する「書いて伝える」活動を行う。まとまりのある文章を書いたり、まとまりのある内容を発表したりできる力を身に付けることは、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成する上で非常に意義深い。

また、本題材で学習した内容は第8学年で学習する Our Project 5（あこがれる人物についてのポスター作成・ポスターセッション）とつながるため、自分が伝えたい内容について、相手にわかりやすく伝えるために、既習の語彙や表現を使い、場合によっては質問をしたりして内容を確認しながら、まとまりのある文章を「書いて伝える」力を育成することは大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第5学年 「Lesson3 She is a cook. あの人だれ？」（三省堂）
現在	⇒本単元 「Our Project 2 この人を知っていますか」（開隆堂）
未来	⇒第8学年 「Our Project 5 こんな人になりたい」（開隆堂）

#### 3 単元の目標

- 三人称単数現在形などの意味や働き理解し、第三者について聞き取ったり読み取ったりすることができる。（知識及び技能）
- 自分が紹介する人物について、自分の考えや気持ちを整理し、英文を書いたり紹介したりすることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 聞き手、読み手に配慮しながら、自分の紹介したい人物について、スピーチ原稿を書いたり、紹介しようとしたりする。（学びに向かう力、人間性等）

#### 4 単元指導計画（全5時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○紹介する人物を確認し、モデルスピーチを参考にしながら構想を練る。	◇三人称単数現在形の意味や働きを理解することができる。【知・理】
	2	○マッピングを使ってスピーチ原稿の構想を練り、原稿を書く。	◇自分の考えや気持ちを整理し、人物を紹介したり、英文を書いたりしている。【知・理】【思・判・表】
	3	○班の友だちの原稿を読んで参考にしたり、友だちから助言をもらったり、原稿が完成したら、スピーチ練習をする。	◇よりよいスピーチ原稿にするために、語句や文章を練り直している。【思・判・表】【主体的】
	4	●班の中でスピーチの発表練習を行い、助言し、振り返りをする。	◇自分のスピーチを振り返り、よりわかりやすい発表にしようとする。【主体的】
	5	○ALTを聞き手として、自分の身の回りの人についてスピーチし、ALTからの質問に答える。 （パフォーマンステスト）	◇自分が紹介する人物についてスピーチことができ、その人物についての質問に答えることができる。【思・判・表】【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：7年2組教室

(1) 主眼

- 自分の身の回りの人物を紹介する「書いて伝える」活動について、班の中でスピーチ練習することを通して、自分のスピーチを振り返り、よりわかりやすい発表にしようとする。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	1 本時の活動を知り、めあてを確認し、活動内容について見通す。 (1)本時の活動内容とめあてを知る。 (2)班での発表練習の流れを知る。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) <b>「つかむ」段階</b> ○本時のめあてを確認させる。 <b>「見通す」段階</b> ○本時の活動がスムーズに進むように、班内での活動の流れを確認させる。 ①発表者 ②タブレット撮影 ③評価表記入 ④⑤英語での質問感想	5
	めあて 自分の発表を振り返って、よりよいスピーチを目指そう！		
展開【一人学び・学び合い】	2 自分練習をする。 (1)班の中で役割分担とスピーチの発表順番を確認し、準備する。 (2)スピーチの評価基準を確認する。 (3)できるだけ原稿を見ないように、自分で練習する。	<b>「一人学び」の段階</b> ○活動がスムーズに進むように、班の役割と順番を確認させる。 ○何を意識してスピーチ練習するのかを意識させる。 ○苦手な生徒には、メモを使ってもいいことを知らせる。	15
	3 順番にスピーチを録画し、そのスピーチについて英語で質問し、評価する。 (1)班で動画を撮影し、スピーチの様子を評価する。  (2)各自のスピーチに対して、質問を英語で1つ行い、発表者は答える。 *班員が発表し終わるまで、繰り返す。	<b>「学び合い」の段階</b> ○評価基準に沿って、発表者のスピーチを評価させる。 ・声の大きさ ・アイコンタクト ・ジェスチャー ・姿勢態度 ・英語らしさ  ○ヒントになるように、黒板にそれまで学んだ言語材料や語順のポイントなどを提示しておく。	20
週末【まもる】	4 自分のスピーチを再生して、評価基準に沿って振り返る。 (1)友だちからの評価表やスピーチから学んだこと、本番のスピーチ発表に生かせることをまとめる。	<b>「まもる」段階</b> ◇自分のスピーチを振り返り、よりよいスピーチを目指しているか。 (リフレクションカード) ○評価表や動画を見直すことで、客観的に自己評価させ、改善点に気づかせる。	10
	まとめ 自分の発表を振り返って、スピーチ発表の改善点に気づくことができる。		
	(2)次時のスピーチ発表の見通しをもつ。		

## 第7学年3組 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 河野 睦

### 1 単元名 生活設計体験学習：ファイナンス・パーク

### 2 単元観

- 本単元は、子どもたちが生涯にわたって賢い生活者としての意思決定ができる素地を培うことが主なねらいである。

生徒はこれまでに、第6学年家庭科で消費者の役割や買い物の仕組み、目的に合った計画的な物の選び方や買い方についての知識を身に付けている。

その上で、ファイナンス・パーク（※）を通して体験的にお金の使い方や支払いの仕方について学習し、個人のお金に関して意思決定する力、進路選択する力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、第8学年家庭科で学習する消費者の権利と責任、消費行動が社会や環境に与える影響についての学習につながり、さらに、第9学年社会科で学習する消費行動と経済全体との関連などについて考える上でも、大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第6学年 家庭科「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」（東京書籍）
現在	⇒本単元 総合的な学習の時間 生活設計体験学習：ファイナンス・パーク
未来	⇒第8学年 家庭科「家庭生活と消費」「購入・支払いと生活情報」（開隆堂） 第9学年 社会科「消費生活と市場経済」（東京書籍）

※ファイナンス・パーク～公益社団法人 ジュニア・アチーブメント日本が提供する経済学習プログラムです。

### 3 単元の目標

- 経済や消費社会の仕組みを理解することができる。（知識及び技能）
- 限られた資金を効果的に運用することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 自己の意思で進路選択や将来設計をしようとする。（学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全11時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○ファイナンステストにより、ファイナンス・パークの概要を知る。	◇ファイナンステストに意欲的に取り組むことができる。【主体的】
	2	○生活費をさまざまな費目に分類し、支出について理解する。	◇生活費を話し合いながら、費目に分類することができる。【知・技】
	3	○生活費の計画と実際を比較し、賢い生活費計画について考える。	◇生活費計画を見直すことができる。【知・技】
	4	●ファイナンス・パーク当日の活動を想定し、生活費計画を立てる。	◇与えられた情報に基づき、生活費計画を立てることができる。【思・判・表】
二	5～10	○これまで身につけた知識・技能を用いて体験を行う。（6時間）	◇収入に見合った支出を意思決定することができる。【思・判・表】
三	11	○学んだことを振り返り、学習のまとめを行う。	◇事前学習や体験で学んだことを振り返り、記述することができる。【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：7年3組教室

(1) 主眼

- 与えられた情報に基づき、生活費計画を立て、それぞれの計画を交流する活動を通して、さまざまなものの見方や考え方があることに気づくことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習について見通す。</p> <p>(1) 個人情報カード、NMI(月間純所得)を確認する。</p> <p>(2) 前時に計算した支出の下限と上限の目安を確認する。</p>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○内容の確認を短時間でを行うために、精選した情報のみを記載する。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○与えられた情報に基づき、支出の目安と自分の考えから、生活費計画を立てる練習をすることを伝える。</p>	5
展開【一人学び・学び合い】	<p>めあて 与えられた情報をもとに、生活費計画を立てよう。</p>		2 5
	<p>2 生活費計画の根拠を考え、生活費計画の目安を参考に、個人で生活費計画を立てる。</p> <p>(1) 生活費項目について、どの項目に費用をかけ、どの項目にかけないのか、など自分の考えを整理する。</p> <p>(2) (1)で考えた根拠と支出の下限と上限の目安を見ながら、生活費計画を立てる。</p> <p>3 班でそれぞれが立てた生活費計画を、項目を絞って交流し、意見交流を行う。</p> <p>(1) 生活費計画の1つの項目について根拠とともに、一人ずつ発表する。</p> <p>(2) 発表後、質問や意見交換を行い、生活費計画の根拠や考え方のちがいを知る。</p> <p>(3) 全体で、班で出た意見を交流する。</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○自分の考えに基づき、根拠を考慮することができるように、どの項目に費用をかけるかはそれぞれの考え方のちがいであり、それらはあつていいちがいであることを押さえる。</p> <p>○しっかり生活費計画を立てさせるために、支出の下限と上限の目安についてはあらかじめ算出しておく。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○短時間でさまざまな考え方があることに気づかせるために、項目を絞って交流させる。</p> <p>○交流の際には、根拠や相手の考え方を否定しないように伝える。</p> <p>◇生活費計画を立てる際には、さまざまなものの見方や考え方があることに気づくことができる。(記述)</p>	1 5
終末【まとめる】	<p>4 生活費計画を立てる際に大切なことを確認する。</p> <p>(1) 本時の活動を振り返り、ポイントを確認する。</p> <p>まとめ 生活費計画を立てる際には、支出の目安を意識することが大切であり、どこにどれだけの金額を使うかについては、個人のもの見方や考え方によって異なり、多様である。</p> <p>(2) 当日の活動の確認をする。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○それぞれの項目にどれだけの金額を使うかは個人の考え方や見方に基づくものであることをおさえる。</p>	5

## 第8学年1組 国語科学習指導案

指導者 清水 さおり

### 1 単元名 いにしへの心を訪ねる 扇の的—「平家物語」から

#### 2 単元観

○ 本単元は、音楽的なリズムと映像的な美しさを味わうと共に、歴史的事実の底流にある個人の心情に目を向けることが主なねらいである。

生徒はこれまでに、昔の人のものの見方や考え方を知り、歴史的仮名遣いなど基本的な文語の決まりを学習し、音読に生かしながら古典の世界を味わっている。

その上で、昔の人の心に触れ、現代に通じる価値観や、現代とは違った、あるいは現代人は忘れてしまったものの見方や考え方に気付く力を身に付けることは大変意義がある。また本単元で学習した内容は、先人の知恵や生き方をたどり、今を生きる自分たちを振り返ることにつながるため大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第6学年 いにしへの言葉に学ぶ（東京書籍）
現在	⇒本単元 いにしへの心を訪ねる 扇の的—「平家物語」から（光村図書）
未来	⇒第9学年 いにしへの心を受け継ぐ（光村図書）

#### 3 単元の目標

○ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。 （知識及び技能）

○ 登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することができる。 （思考力、判断力、表現力等）

○ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 （学びに向かう力、人間性等）

#### 4 単元指導計画（全4時間）

次	時	○主な学習活動（内容）【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○「平家物語」の冒頭部分を朗読し、概要を捉える。	◇現代語訳などを手掛かりに作品を読むことで、古典に表れたものの見方や考え方を理解している。【知・技】
	2	○「扇の的」のあらすじを捉え、朗読する。	◇古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。【知・技】
	3	●登場人物の心情を捉え、自分の考えを書く。	◇男の頸の骨を射落とした人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。【思・判・表】
二	4	○読み取ったことを基に自分の考えを述べる。	◇進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 8年1組教室

(1) 主眼

- 「あ、射たり。」か「情けなし。」かについて、現代語訳や原文の表現に着目して意見の交流をする活動を通して、自分の立場を明らかにして考えを書くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	1 前時の学習を振り返り、本時の目標を確認する。	<p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○前時の振り返りとして「扇の的」のあらすじを確認する。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○本時は、自分の立場を明らかにして考えを書くことを確認する。</p>	5
展開【一人学び・学び合い】	<p>めあて 「あ、射たり。」か「情けなし。」か、自分の考えを書こう。</p> <p>2 「あ、射たり。」と言った人と「情けなし。」と言った人がいるが、自分だったらどちらの立場かを考える。</p> <p>(1) 自分だったらどちらの立場か、理由とともに考える。</p> <p>(2) 班で自分の意見を発表する。</p> <p>(3) 班で出た意見を全体で発表する。</p> <p>例「あ、射たり。」:「御定ぞ、つかまつれ。」とあるように命令に逆らうことはできず名誉を守るために命を懸ける覚悟をもっている。 「情けなし。」:「あまりのおもしろさ〜舞ひしめたり。」とあるように敵味方関係なく武芸の優れた者への賞賛だったのに射るのはひどい。</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○立場を決めるために、定型文を提示し、考える場を設定する。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○考えを広げるために、班で意見交流する場を設定する。</p> <p>○根拠となる表現を明確にし、自分の考えが書けるよう、全体で意見交流する場を設定する。</p> <p>◇頸の骨を射落とした後の人々の反応に着目し古人のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを書いている。 (発言・観察・ワークシート)</p>	10 10 10
	3 自分の考えを書く。	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○各班の意見を参考にして自分の考えをまとめる場を設定する。</p>	12
	<p>まとめ 「あ、射たり。」と「情けなし。」をどんな気持ちで言ったのか現代語訳や表現から考えることで、自分の考えをまとめることができた。</p>		
終末【まとめる】	4 次時の学習について確認する。		3

## 第8学年2組 社会科学習指導案

指導者 川口 拓朗

### 1 単元名 江戸幕府の成立と対外政策

#### 2 単元観

- 本単元は、江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解することが主なねらいである。

生徒はこれまでに、幕府の政策、身分制、政治の仕組みや働き、先人の業績や優れた文化遺産、関係の深い国の生活や国際社会における日本の役割について理解するとともに、地図帳などを用いて、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。

その上で、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることは大変意義がある。

本単元で学習した内容は高等学校で学習する日本史探求とつながり、近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身に付けるうえで大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第6学年「我が国の歴史上の主な事象」(教育出版)
現在	⇒本単元「江戸幕府の成立と対外政策」(東京書籍)
未来	⇒高等学校「歴史 日本史探求」

#### 3 単元の目標

- 江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの対外政策と対外関係を基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解することができる。(知識及び技能)
- 統一政権の諸政策の目的と方法に着目し、幕藩体制の確立や身分制、対外政策などの事象を関連付け、江戸幕府の成立と対外関係について、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 江戸幕府の成立と対外関係について、そこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとする。(学びに向かう力、人間性等)

#### 4 単元指導計画(全6時間)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○幕府の大名統制の方法について、大名の配置から幕府の意図を考察する。	◇資料から大名統制の方法を読み取って理解している。【知・技】
	2	○江戸時代の身分制度や支配の仕組みについて説明する。	◇資料から、江戸時代の身分や職分、自治の様子を理解している。【知・技】
	3	●江戸幕府の対外政策について、貿易の振興から鎖国へ方針を変えた理由について考察し、説明する。	◇江戸幕府が対外政策を変化させて鎖国した理由を考察し、表現している。【思・判・表】
	4	○オランダ・中国、朝鮮との関係について理解し、その違いを説明する。	◇オランダ・中国、朝鮮との関係や貿易の在り方を理解している。【知・技】
	5	○江戸幕府と琉球王国、アイヌ民族との関係について説明する。	◇江戸幕府と琉球王国、アイヌ民族の関係について理解している。【知・技】
二	6	○なぜ江戸時代の支配が260年続いたのか説明する。	◇江戸時代が260年続いた理由を、幕府の諸政策の目的と関連付けて考察し、表現している。【思・判・表】 ◇幕府の成立と対外関係で見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。【主体的】



5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 8年2組教室

(1) 主眼

- 江戸幕府の対外政策が貿易の振興から鎖国へと変化している理由について、キリスト教の影響と貿易統制の強化の資料を関連付けて考え、話し合う活動を通して、主張、根拠、理由を明確にして説明することができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	<p>1 本時の課題を知り、めあてを確認する。</p> <p>(1) 課題について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">なぜ貿易の振興から鎖国へ幕府の対外政策が変化したのだろうか？</div> <p>(2) 解決方法や結果について見通す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キリスト教が関係しているのではないか。</li> <li>・幕府にとって不利益になるものがあったのではないか。</li> </ul>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○目的意識をもって課題に取り組むために、江戸時代は鎖国を行っていたという認識と幕府は他国との貿易を推進していたという歴史的事実の差を確認する。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○なぜ貿易の振興から鎖国へ幕府の対外政策が変化したのかを考えるために、既習事項を確認する。</p>	7
めあて 幕府の対外政策が変化している理由を説明しよう！			
展開 【一人学び・学び合い】	<p>2 幕府の対外政策が変化した理由について考える。</p> <p>(1) 個人で考える。</p> <p>(2) 班で話し合う。</p> <p>(3) 全体で意見を共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主張：幕府の対外政策が貿易の振興から鎖国へと変化している。</p> <p>根拠：キリスト教と儒教の比較、島原・天草一揆、江戸時代の貿易額の資料</p> <p>理由：領主への忠義よりも神への信仰を重んじるキリスト教を恐れたため。島原・天草一揆でキリスト教が一揆と結びついたため。大名や商人が行っていた貿易を幕府が独占するため。</p> </div>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○対外政策が変化した理由を捉えるために、資料を提示する。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○考察したことを説明するために、主張、根拠、理由の視点をもつことを確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">◇江戸幕府が貿易の振興から鎖国へ対外政策を変化させた理由を考察し、説明することができる。(記述)</div>	8 15 10
終末 【まとめる】	<p>3 本時の学習をまとめ、振り返る。</p> <p>(1) 学習内容についてまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>領主への忠義よりも神への信仰を重んじるキリスト教は危険視されるようになり、大名が経済力をつけることを防ぐためにも幕府が貿易を統制し、外交を独占しようとしたため。</p> </div> <p>(2) 本時の振り返りを書く。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○めあてに対する生徒の考えを整理するために、本時のまとめと振り返りをする。</p>	10

## 第8学年3組 英語科学習指導案

指導者 桑岡 有吏恵

### 1 単元名 Program4 High-Tech Nature (C-L Time)

### 2 単元観

- 本単元は、自分の好きなものについて、比較級や最上級の表現を用いて、互いに伝え合ったり理由とともに答えたりする活動を通して、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにすることが主なねらいである。

生徒はこれまでに、自分のことを表現したり、自分の好きな人物を紹介し合ったりすることを学習し、自分の考えやその理由を即興で話そうとする力を身に付けている。

その上で、身近なものを比べた内容について聞き取ったり書いたりすることを学習し、自分の考えを相手に分かってもらえるように、自分の好きなものについてインタビューしたり理由とともに答えたりする力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は、第9学年で学習する「1つのテーマに対して自分の意見を伝え議論するディベート活動」とつながるため、大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第3学年「I like blue.」(文部科学省)
現在	⇒本単元「Program4 High-Tech Nature」SUNSHINE 開隆堂
未来	⇒第9学年「Program1 Steps1」SUNSHINE 開隆堂

### 3 単元の目標

- 比較級、最上級、as～asなどの意味や働きを理解し、聞き取ったり書いたりすることができる。 (知識及び技能)
- 自分の好きなものについて互いに伝え合ったり理由とともに答えたりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 会話を継続するために必要な自分の課題を振り返り、改善しようとし、主体的に話すことができる。 (学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画 (全9時間)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○身近なものを比べた内容について、聞き取ったり書いたりする。	◇比較級などの意味や働きを理解し、聞き取ったり書いたりしている。 【知・技】
	2	○自分が「最も～だ」と思うものについて、聞き取ったり書いたりする。	◇最上級などの意味や働きを理解し、聞き取ったり書いたりしている。 【知・技】
	3	○身長や身近なものを比べた内容について、聞き取ったり書いたりする。	◇as～asなどの意味や働きを理解し、身長や身近なものを比べた内容について、聞き取ったり書いたりしている。 【知・技】
二	4-6	○教科書の会話文の読解をする。	◇会話文の概要や要点を捉えている。 【思・判・表】
	7	○写真や絵を見て、会話文の内容を相手に示しながら概要を話す。	◇簡単な語句や文を用いて、即興で概要を話している。【思・判・表】
	8	●自己紹介活動を行う。 <C-L Time>	◇会話を続けるために必要なことを考え、主体的にアドバイスを行っている。 【主体的】
	9	○自分の好きなものを伝え合う活動をする。	◇自分の好きなものについて伝え合ったり理由とともに即興で話したりしている。【思・判・表】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: ランチルーム

(1) 主眼

- 自己紹介活動を通して、会話を続けるために必要なことを考え、主体的にアドバイスを行うことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 前時を振り返り、本時学習のめあてを確認する。	「つかむ」段階 ○小学生が手本にしたいと思えるように、前時の学習のやりとりをデモンストレーションする場を設定する。	3
	2 教師のデモンストレーションを見て、見通しをもつ。	「見通す」段階 ○本時のゴールイメージをもたせ、小学生がめあてを達成できるように、どのようなアドバイスが必要かを確認する。 ○R・C・Q(リピートまたはリアクション・コメント・質問)やアイコンタクト、グッドボイスの大切さを確認する。	2
めあて 会話を続けるために必要なことを小学生にアドバイスしながら、自分の発表で工夫する点を見つけよう。			
展開 【一人学び・学び合い】	3 小学生とやりとりをしながら名刺を作る。  【自己紹介の流れ】 A: Hello. What's your name? B: My name is Yurie. Y U R I E, Yurie. A: OK, Yurie. What color do you like? B: I like red. Because~ A: Oh, red. It's nice color. What animals do you like? B: I like dogs. Because~ A: Oh, really? I like dogs too! B: See you. A: See you.	「一人学び」の段階 ○小学生とのコミュニケーションでは、ゆっくり話したり相づちを打ったり等の工夫が必要だということを確認する。 ○R・C・Qを意識して会話を続けさせる。 ○次時の目標である、理由も添えて話すことを確認する。	1 2
	4 小学生と一緒に自己紹介と名刺交換の練習を行う。	「学び合い」の段階 ○小学生が自信をもってやりとりができるように、繰り返し練習をし、中学生がアドバイスをする場を設定する。	8
	5 小学生と自己紹介を行い、名刺交換をする。	○座席を移動し、自己紹介の相手が交代できるようにする。 ○活動中、アイコンタクト、グッドボイス、リアクションを意識して活動ができていた小学生を紹介することで、相手に伝わるような工夫の大切さが再確認できるようにする。	1 5
終末 【まとめる】	6 活動の振り返りを行う。 (1) 小学生の自己紹介を評価し、良かった点と改善できる点を発表する。	「まとめる」段階 ○相手に伝わるよう工夫する姿や積極的にコミュニケーションする態度など、小学生の良かったところを称賛する。	5
	まとめ 相づちを打ったり、好きな理由を伝えたりする一文を添える工夫が必要。  (2) リフレクションをする。	◇会話を続けるために必要なことを考え、主体的にアドバイスを行っている。(記述)  ○自分がアドバイスできたことや次時の発表の改善点などを書かせる。	

## 第9学年1組 数学科学習指導案

指導者 進登 大史

### 1 単元名 5章 図形と相似

### 2 単元観

- 本単元は、三角形の相似条件などを用いて図形の性質を論理的に確かめ、数学的な推論の必要性や意味や方法等の理解を深め、論理的に考察し表現する力を伸ばすことや、立体の相似の意味を理解し、図形の計量ができるようになることが主なねらいである。

生徒はこれまでに、第6学年で、図形についての観察や構成などの活動を通して縮図や拡大図について理解し、第8学年で、二つの図形が合同であることを理解し、証明する力を身に付けている。

その上で、相似条件を基に図形の性質を論理的に確かめ考察し、表現する力を養うことは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は高等学校数学Ⅰの「図形と計量」とにおける、構成要素間の関係を三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、及び三角比を活用して問題を解決する力につながるため、大変重要である。

- 学習内容の系統性

過去	第6学年「拡大、縮小」(啓林館) ⇒ 第8学年「図形の調べ方」(啓林館)
現在	⇒本単元「図形の相似」(啓林館)
未来	⇒高等学校数学Ⅰ「図形と計量」(啓林館)

### 3 単元の目標

- 相似の意味及び三角形の相似条件について理解することができる。(知識及び技能)
- 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。  
(思考力、判断力、表現力等)
- 相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、学んだことを生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする  
ことができる。  
(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画(全8時間)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1～2	○相似な図形	◇図形の相似の意味と相似な図形の性質を理解している。【知・技】
	3～4	○三角形の相似条件	◇三角形の相似条件を見いだそうとしている。【主体的】
	5～7	○三角形の相似条件と証明	◇図形の性質などを、三角形の相似条件を用いて証明することができる。【思・判・表】
	8	●三角形の相似と線分の長さ	◇三角形の相似を用いて、辺の長さを求めることができる。【知・技】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：9年1組教室

(1) 主眼

- 三角形の相似と線分の長さについて、相似な三角形から対応する辺を見つける活動を通して、辺の長さを求めることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	1 本時の問題(課題)を知り、めあてを確認する。 (1) 本時の課題について知る。 (2) 解き方や結果について見通す。	<b>「つかむ」段階</b> ○相似の性質を使うことに気づくために、前時までに学習した内容を問う。 <b>「見通す」段階</b> ○対応する辺や角を意識するために、図中に長さや角度が等しい部分を確認する場を設定する。	10
めあて 相似を用いて、辺の長さを求めよう。			
展開 【一人学び・学び合い】	2 課題に取り組む。 (1) 個人で考える。	<b>「一人学び」の段階</b> ○全員が考えをもつために、誘導問題のように細かな問いを提示する。	5
	(2) 班で話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【話し合いの視点】 ・相似な三角形がどこにあるか。 ・対応する辺がどこにあるか。</div>	<b>「学び合い」の段階</b> ○全員が発言できるように、課題の個人の進捗状況に合わせて班の中で順番に発言するよう指示を出す。	10
終末 【まとめる】	(3) 全体で確認する。		15
	3 本時学習をまとめ、振り返り問題を解く。 (1) 学習内容についてまとめる。	<b>「まとめる」段階</b> ○本時の学習内容を振り返るために、まとめを行い、類似問題を提示する。	5
まとめ 相似な三角形から対応する辺を見つけることで、辺の長さを求めることができる。			
	(2) 振り返り問題を解く。	◇三角形の相似を用いて、辺の長さを求めることができる。(プリント)	5

## 第9学年2組 国語科学習指導案

指導者 平尾 智美

### 1 単元名 いにしえの心を受け継ぐ

### 2 単元観

○ 本単元は、歴史的な背景などに注意して古典を読んだり古典の一節を引用して使ったりする学習活動を通して、長い年月を経てもなお現代に残るものの見方や考え方を知り、古典を学ぶ意義と価値を見出すことが主なねらいである。

生徒はこれまでに、小学校第6学年で親しみやすい古文の文章を音読し、言葉の響きやリズムを捉えたり、中学校第2学年で現代語訳を手掛かりに作品を読み、古典に表れたものの見方や考え方を知り、現代との比較を通して新たな発見をしたりして、古典に親しむ態度を身に付けている。

その上で、作品の歴史的背景などについて学習し、長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使い、古典に一層親しむ態度を育てるとともに、中学校三年間の古典の学びの集大成として、これまでの学習内容を振り返り、古典学習の意義と価値を見出すことは、我が国の伝統や文化を継承・発展させることにつながるため大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は高等学校で学習する「古典探求」分野とつながり、古典を主体的に読み深めることを通して、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う上で大変重要である。

#### ○ 学習内容の系統性

過去	小学校第6学年「いにしえの言葉に学ぶ」(東京書籍) 第2学年「いにしえの心を訪ねる」(光村図書)
現在	⇒本単元「いにしえの心を受け継ぐ」(光村図書)
未来	⇒高等学校「古典探求」

### 3 単元の目標

- 歴史的背景などに注意して古典を読んだり、古典の一節を引用して使ったりして、作品の内容を具体的に捉えることができる。(知識及び技能)
- 我が国の伝統や文化に触れることで、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 言葉がもつ価値を認識し、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画(全6時間)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○単元の学習の見通しをもつ。 【単元を貫く言語活動】 「いにしえの心を受け継ぐ」とはどのようなことか?	◇既習事項を振り返り、単元名に着目し、単元の学習の見通しをもつことができる。【主体的】【知・技】
	2	○「古今和歌集」の「仮名序」の内容を捉えることができる。	◇比喩や対句表現、係り結びや文末表現などに着目し、内容を理解している。【知・技】
	3	○三大和歌集「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の和歌を読み比べ、作者の心情や情景についてまとめる。	◇歴史的背景と表現の特徴に着目し、和歌の内容を読み取ることができる。 【思・判・表】
二	4	○「おくのほそ道」1を読み、芭蕉の旅に対する思いを読み取る。	◇現代語訳を参考にし、芭蕉の古人に対する憧れや旅支度の様子から、旅への思いを読み取ることができる。【知・技】
	5	○「おくのほそ道」2を読み、芭蕉が各地で感じた思いを読み取る。	◇脚注の歴史的背景を参考にし、芭蕉が何を見て何を感じたのかを読み取ることができる。【思・判・表】
	6	●3年間の古典の学習を振り返り、古典を学習する意義と古典の価値を考える。 「いにしえの心を受け継ぐ」とはどのようなことか?	◇3年間の古典の学習内容を比較し、これからも残したいと思うものの見方や考え方等を書くことができる。【主体的】【思・判・表】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於: 9年2組教室

(1) 主眼

- 3年間の古典の学習内容を比較する活動を通して、日本の伝統や文化について、自分の生活と照らし合わせて考え、古典を学習する意義と古典の価値について自分の考えを書くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	1 本時の学習課題を知り、めあてを確認する。 (1) 課題について知る。 「いにしへの心を受け継ぐとは？」 (2) 解決方法や結果について見通す。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) <b>「つかむ」段階</b> ○課題を確認できるように、単元名の意味を問う。 <b>「見通す」段階</b> ○考えた内容を活動につなげることができるように、小学校から中学校までの古典の既習事項を振り返る場を設定する。	10
展開【一人学び・学び合い】	めあて 「いにしへの心を受け継ぐ」とはどういうことなのか、考えよう。		
	2 【エキスパート活動】 古典の学習内容について振り返り、自分が思う古典のよさについて個人で考える。 ・エキスパートA: 1年次学習内容(『竹取物語』、故事成語) ・エキスパートB: 2年次学習内容(『枕草子』、漢詩) ・エキスパートC: 3年次学習内容(『論語』、和歌、『おくのほそ道』)	<b>「一人学び」の段階</b> ○生徒が既習事項を振り返り、古典の学習価値(よさ)を考えることができるように、各学年で使用した教科書を各グループのタブレットに提示する。 ○ジグソー活動で考えを共有しやすいように、考えたことをジャムボードに打ち込むよう指示する。	7
	3 【ジグソー活動】 古典の学習価値について、グループで話し合う。 【話し合いの視点】 ・その時代特有の価値観や考え方 ・時代が変わっても変わらない考え方	<b>「学び合い」の段階</b> ○それぞれの考えを比較・分類し、古典の学習価値について考察できるように、話し合いの視点を確認する。	10
	4 【クロストーク】 (1) 全体で考え、調べた内容や自分の考えを整理する。 ・古典のよさをどのように受け継いでいくか。 (2) 個人の考えを付加・修正する。	○個人の考えが整理できるように、各班の発表からキーワードを板書する。  ◇日本の伝統文化としての価値や時代が変わっても変わらない考え方を学び、自分の考え方や生活に生かしていくことが受け継いでいくということ。(記述)	10
終末【まとめる】	4 本時の学習をまとめ、振り返る。 (1) 学習内容についてまとめる。  まとめ 伝統文化の価値や時代が変わっても変わらない考え方を学び、自分の生き方に生かしていくということだと分かった。 (2) 学習方法について振り返る。 ・比較、関連付け	<b>「まとめる」段階</b>  ○3年間の古典の学習を通して、伝統文化のよさと受け継ぎ方を考えることができたことを確認する。	8

## 第9学年3組 社会科学習指導案

指導者 都築 正悟

### 1 単元名 地方自治と私たち

### 2 単元観

○ 本単元は、民主政治の推進と、国民の政治参加との関連について考察し、課題を追及、解決する活動を通して、地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することが主なねらいである。

生徒はこれまでに、小学校社会科第6学年で、我が国の政治の働きについて学習し、国や地方公共団体の政治が国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解し、政治の在り方について考える力を身に付けている。

その上で、地方自治と私たちについて学習し、民主政治の推進と政治参加との関連について多角的、多面的に考察し、表現する力を身に付けることは大変意義がある。

また、本単元で学習した内容は高等学校公民「政治・経済」で学習する現代日本の政治・経済とつながるため、議会制民主主義や地方自治について、現代社会の諸事情を通して理解を深めることにおいて大変重要である。

○ 学習内容の系統性

過去	第6学年「私たちの暮らしを支える政治」(教育出版)
現在	⇒本単元「地方自治と私たち」(東京書籍)
未来	⇒高等学校 公民「政治・経済」

### 3 単元の目標

- 地方自治の考え方や仕組みについて理解し、地方自治の変化や課題について資料を収集、選択し的確に読み取ることができる。(知識及び技能)
- 地域の一員として地域の課題や特色について理解した上で、具体的な解決策を提案することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 身近な地域の政治に関心をもち、社会の一員として自分たちに出来ることを考え主体的に社会に関わろうとする。(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画(全5時間)

次	時	○主な学習活動(内容)【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○地方公共団体の役割について考える。	◇地方公共団体の仕事の内容や役割を理解している。【知・技】
	2	○地方自治がどのような仕組みで行われているか考える。	◇地方自治の仕組みを地方議会と首長の役割を中心に理解している。【知・技】
	3	○住民の権利について理解する。	◇直接請求権などの住民の権利について理解している。【知・技】
二	4	○地方公共団体の課題について考える。	◇身近な地域の政治に関心をもち、意欲的に地方自治の実態を把握しようとしている。【主体的】
	5	●身近な地域の課題の解決策を提案する。	◇よりよいまちづくりのための提案を考え、表現できている【思・判・表】



5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：9年3組教室

(1) 主眼

- 地方自治の仕組みについて身近な地域の課題に対する解決策を考える活動を通して、地方自治について理解し、主体的に地域社会に関わる方法について考えることができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	1 本時の課題を知り、めあてを確認する。 (1) 地域の課題について振り返る。 (2) 取組や提案の方法について見通す。	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法) <b>「つかむ」段階</b> ○前時の授業を振り返り、身近な地域の課題について考える。 <b>「見通す」段階</b> ○地域社会に関わることを考えるために住民の権利について確認する。	10
	めあて 私たちが住んでいる地域をより良くするための取組について考えよう。		
展開【一人学び・学び合い】	2 地域の課題について整理し、解決策を考える。 (1) 個人で考える。 (2) グループで話し合う。 【話し合いの視点】 ①地域の現状はどのような状態であるか。 ②将来起こりうる問題とその解決策の提案の仕方。 (3) 全体で考えを整理する。 地域の現在の課題とこれから起こりうる課題→どのように地域に関わっていくか	<b>「一人学び」の段階</b> ○課題と解決策を整理するために課題ごとに内容を図式化する。 <b>「学び合い」の段階</b> ○地域の課題を捉え、解決策の話し合いができるように話し合いの視点を確認する。  ◇資料から読み取れる内容を整理し、地域の課題とその解決策を説明することができる。(記述)	5 10
	3 本時の学習をまとめ、振り返る。 (1) 学習内容についてまとめる。		<b>「まとめる」段階</b>
終末【まとめる】	まとめ 自分たちが住んでいる地域を良くするために、地域のことを知り政治に関わりをもって行動することが大切である。		
	(2) 振り返りシートを記入する。	○これからの地域社会に関わっていくために自分たちに出来ることを確認する。	5

# 特別支援学級 かがやき 1 (知的) 作業学習 学習指導案

指導者 法橋 美貴

## 1 単元名 くるみボタンでマグネットを作ろう

### 2 単元観

○ 本単元は、指先の訓練として作業活動に取り組み、作業学習で製作した製品等で人の役に立つことの喜びや成就感を高めることが主なねらいである。

生徒は小学部の高学年の時に折り紙を使ったカレンダー作りや毛糸を使った花瓶作りを行い、中学部では2本のリボンでストラップを作るなど細かい指使いで作業を行うなど、指先の訓練をしながら諦めずに作品を完成させる力を身に付けている。

その上で今回、既習のくるみボタンでマグネットを作ることで、細かい指使いで作業を行いつつ、仲間と協力して製作することは、自身の生活に役立つ力を身に付けることにつながるので大変意義がある。

○ 学習内容の系統性

過去	小学部 「折り紙でカレンダー作り」「毛糸を使った花瓶作り」 中学部 「リボンストラップを作ろう」
現在	⇒本単元 「くるみボタンでマグネットを作ろう」
未来	⇒リボン結びができる。靴紐が結べる。エプロンが後ろ手で結べる。

### 3 単元の目標

○ 道具の使い方を知り、場面に応じて適切に使用することができる。

(知識及び技能)

○ くるみボタンの布を選ぶことができる。

(思考力、判断力、表現力等)

○ 仲間と協力して、製作しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元指導計画 (全3時間)

次	時	○主な学習活動 (内容) 【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○くるみボタンを作ろう。 (布を選び、型紙通りに裁断し、作ってみよう。)	◇くるみボタンの布を選ぶことができる。【思・判・表】
	2	○マグネット作りのための準備をしよう。(ラジオペンチを使い、部品の調節をしよう。)	◇道具を適切に使用することができる。【知・技】
	3	●くるみボタンから、マグネット作りをしよう。(くるみボタンを作り、磁石をつけよう。)	◇仲間と協力して製作することができる。【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：かがやき1教室

(1) 主眼

- くるみボタンからマグネットを作ることについて、生活に役立つものを自らの力で製作するという活動を通して、喜びや成就感を実感することができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入【つかむ・見通す】	1 マグネット作りを行うことを知る。	<p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○くるみボタンでマグネットを作ること知らせる。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○完成見本を見て、どのように作っていくかゴールを見通させる。</p>	5
展開【一人学び・学び合い】	めあて くるみボタンでマグネットを作ろう。		
	<p>2 くるみボタンを作る。</p> <p>(1)布の柄を考えながら裁断する。</p> <p>(2)くるみボタンを作る。</p> <p>3 マグネットを作る。</p> <p>(1)磁石の向きを確認する。</p> <p>(2)ボンドを適切な量使用してくるみボタンを磁石につける。</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○前回までの活動を思い出しながら、くるみボタンを1人で作らせる。</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○マグネットを作る時は仲間と協力して行わせる。</p> <p>◇磁石の向きに注意し、マグネットを作ることができる。(作品)</p>	20 15
終末【まとめる】	<p>4 片付ける。</p> <p>(1)道具を所定の場所に片付ける。</p> <p>(2)ゴミをまとめて捨てる。</p> <p>(3)マグネットをホワイトボード上に集める。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>○道具を片付けさせできあがったマグネットをホワイトボードに置かせる。</p>	10
	<p>まとめ マグネットを作るときには、磁石の向きを確認することで、使いやすくなる。</p>		
	(4)次回の作業も同じ活動を知ることを知る。		

## 特別支援学級 かがやき2（情緒）自立活動 学習指導案

指導者 松尾 聖奈子

### 1 単元名 健康の保持に努めよう

### 2 単元観

- 本単元は自らの健康状態を知り生活習慣や生活環境の形成を図ることを、主体的に改善するために必要とされる自立を目指すことが主なねらいである。

生徒はこれまでに、小学生の自立活動では、歯磨き、入浴、爪切りなどの清潔や衛生を保つためを行っている。

その上で、体調を自己管理するために、客観的な指標となる検温を行い記録するというこを習慣化し、体調が悪いと判断したらその後の対応を教師や保護者に相談し、適切なアドバイスを受けることを学習する。

- 学習内容の系統性

過去	歯磨き、入浴、爪切りの活動を行う。
現在	⇒体調を客観的に判断するために自ら検温し、記録する。 ⇒体調不良だと判断したら、教師や保護者に相談する。
未来	⇒自らの体内の感覚に注目し、管理することができる。

### 3 単元の目標

- 健康状態を知るために検温し、記録することができる。 （知識及び技能）
- 体内不良の時は、相談することができる。 （思考力、判断力、表現力等）
- 適切なアドバイスを受けることができる。 （学びに向かう力、人間性等）

### 4 単元指導計画（全3時間）

次	時	○主な学習活動 【●本時】	◇主な評価規準
一	1	○検温の結果をグラフにまとめる。	◇意欲的にグラフにまとめることができる。 【主体的】
	2	●体調不良を教師にどのように相談するのかを理解する。	◇キーワードを使って、教師に相談することができる。【思・判・表】
	3	○これまでに見につけた知識・行動を後輩に伝える。	◇後輩にわかりやすく伝えることができる。 【主体的】

5 本時 令和4年11月4日(金) 5校時 於：かがやき2教室

(1) 主眼

- 体調が悪い時はどうしたらいいのかなど、具体的な状況を考える活動を通して、自分の体調を説明することができる。

(2) 展開

段階	学習活動・内容	○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)	配時
導入 【つかむ・見通す】	<p>1 本時の課題を知り、めあてを確認する。</p> <p>(1)課題について知る。 「体調が悪い時はどうしたらいいでしょうか。」</p> <p>(2)経験をもとに、解決方法や結果について見通す。 ・がまんする。 ・薬を飲む。 ・親に言う。</p>	<p>○指導上の留意点 ◇評価規準(方法)</p> <p><b>「つかむ」段階</b></p> <p>○ 生徒が、本日の課題を理解するために、本時の授業の流れを確認する。</p> <p><b>「見通す」段階</b></p> <p>○ 生徒が自分の体調を正確に伝えることができるように、伝える際のキーワードを学習させる。</p>	5
<p>めあて 自分の体調を人に伝えることができるようになるろう！</p>			
展開 【一人学び・学び合い】	<p>2 体調を人に伝える方法を考える。</p> <p>(1)自分の経験をもとに、グラフを参考にし、病気の状態を考える。</p> <p>(2)自分の状態を伝える方法を考える。</p> <p>(3)キーワードをもとに体調を伝える練習をする。</p> <p>3 伝えることのよさについて考える。</p>	<p><b>「一人学び」の段階</b></p> <p>○ 生徒が、イメージしやすいように、絵カードを使う。</p> <p>◇ 自分の体調を相手にわかりやすく説明できる(様相)</p> <p><b>「学び合い」の段階</b></p> <p>○ 生徒が、自分の経験を語りやすいようにプリントに沿って発表させる。</p> <p>○ 生徒は、練習の手順を見ながら行う。</p> <p>○ 生徒がやってみてよかったと実感を持ったことについて感想を発表する。</p>	25
終末 【まとめる】	<p>4 本時学習をまとめ、振り返る。</p> <p>(1)学習内容についてまとめる。</p> <p>(2)学習方法について振り返る。</p>	<p><b>「まとめる」段階</b></p> <p>まとめ 自分の体調を伝えるには、キーワードの言葉を使って、説明するとよい。</p>	5







飯塚市立小中一貫校穂波東校